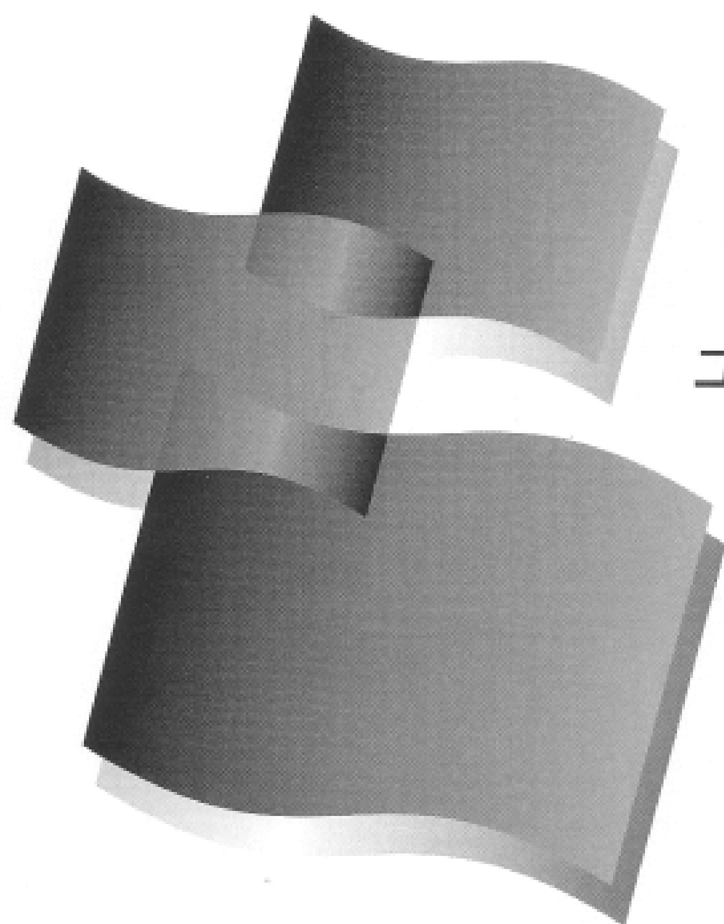
WinBook
Quattro/X



ユーザーズガイド

SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

WinBook Quattro/X
ユーザーズガイド

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Quattro/Xをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。 ソーテックWinBook Quattro/Xは、高精細の1024×768ドットワイド画面に加え、CD-ROMドライブやステレオスピーカ、マイクなどのマルチメディア機能を標準で搭載するなど、Windows®を活用するための数多くの機能をコンパクトなA4ファイルサイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を7つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Quattro/Xを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

Windows®の起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読みください」は、必ずお読みください。
この中には、WinBook Quattro/Xを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windows®を再インストールする場合は「始めにお読みください」に書かれているとおりにドライバーなどのインストールを行なわないとWinBook Quattro/Xの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

株式会社ソーテック

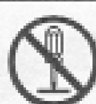
WinBook

本製品を正しくお使いいただくために

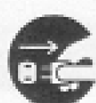
この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

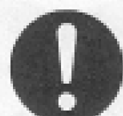


●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜け」という意味です。

⚠警告



●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



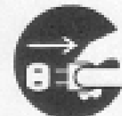
●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。



●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

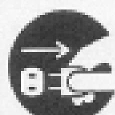


●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償補修の対象外となります。修理は販売店にご相談ください。

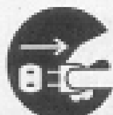


●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。

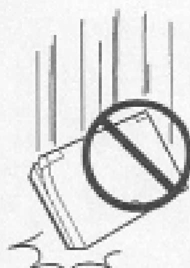
⚠ 注意



● ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。



● 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電･火災の原因となります。



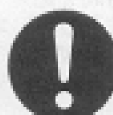
● 落としたり強い衝撃を与えないでください。
また、重い物をのせないでください。
故障による火災･感電の原因となります。



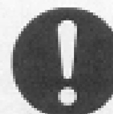
● 熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10~30℃)/使用周囲湿度(20~80%)を超える範囲では使用･保存しないでください。



● ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。



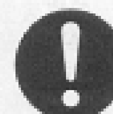
● 長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。(発熱することは異常ではありません。)



● タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。



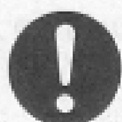
● 本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。



● タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

本製品を正しくお使いいただくために

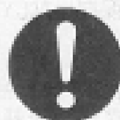
⚠警告



●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。



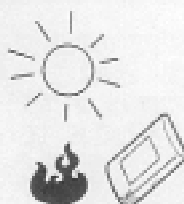
●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。



●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。



●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれているので、分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。



●バッテリは火気の近くや直射日光の当たる場所で使用、放置、充電しないでください。危険防止の保護回路が壊れ、発熱・発火の恐れがあります。



●バッテリから液が漏れて、液が眼に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

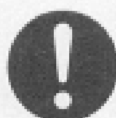


●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。

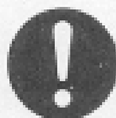
⚠注意



●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(+と−の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。



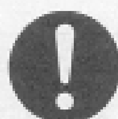
●バッテリを水や、海水につけたり、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。



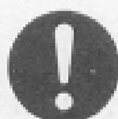
●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないで、弊社テクニカルサポートセンタにお問い合わせください。



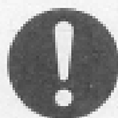
●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。



●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているか確認してください。



●バッテリは乳幼児の手の届かぬ所へ保管し、使用するときも、乳幼児が機器からバッテリを取り出さぬよう注意してください。



●使用済のバッテリは、端子にテープなどを貼り、絶縁して廃棄してください。

保証について

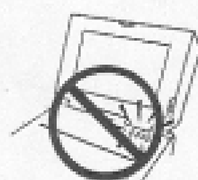
保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証期間後の修理については、お買い求めいただいた販売店までご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有償で修理いたします。
保証書は、お買いあげいただいた販売店で、所定事項を記入のうえお受け取りになり、大切に保管してください。


注意　**本製品を、分解、改造された場合、保証期間であっても無償保修の対象にはなりません。また、修理対応もできません。**

お願い



●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。



●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品にインストールされているWindows®、および各種ユーティリティソフトが収録されているフロッピーディスクは大切に保存してください。
●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

お手入れについて



●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10~30℃)の環境に放置した後、お使いください。

Contents

重要なお知らせ
版権についてのお知らせ
はじめに……1
本製品を正しくお使いいただくために……2
Contents……7
ユーザーズガイドの読みかた……12
困ったときはサポートへ・・・……14

第1章 スタートアップガイド

1 WinBook Quattro/Xの機能を知る……16

2 各部の名前と機能を確認する……18
カバーの開け閉め……18
前面/上面……18
右側面・後面……20
底面……22
ステータスLEDについて……23

3 ACアダプタの接続とバッテリの充電……24
初めて使うときは………24
ACアダプタの接続と充電……24
バッテリ残量が少なくなったときは………25
バッテリパックの交換……26

4 電源のON/OFFとリセット……28
電源のON/OFF……28
コンピュータをリセットする……29

5 タッチパッドの使いかた……30
画面のポインタを動かすには………30
クリック、ダブルクリック、ドラッグするには………30

6 Windows®の使いかた……31
Windows®の画面について……31
クリックとダブルクリック……32
ドラッグ&ドロップ……32
アプリケーションを起動する……33
アプリケーションを終了する……33
アプリケーションを切替える……33
ウィンドウを操作する……34

7 画面の解像度などを変える……35
出荷状態の設定……35
設定を変更する……35

8 スタンバイ機能とサスペンド機能を設定する……38
スタンバイ機能の設定……38
サスペンド機能の設定……39

9 スピーカの音量を設定する……40
スピーカの音量の調節……40

10 フロッピーディスクドライブの使いかた……41
フロッピーディスクを使うときの注意……41
データを書き込み禁止にする……42
ドライブへの出し入れ……42

第2章 キーボード操作になれよう

1 キーボード各部の名前と機能……44
文字入力キー……44
制御キー……44
システムファンクションキー……45
アプリケーションキー……46
Windows®キー……46
各キーの機能……47
テンキーを使って数字を入力する……49

2 文字を入力する……50
入力方法について……50
文字入力キーの使いかた……51

第3章 マルチメディアを楽しもう

1 サウンド機能を使う……54
内蔵スピーカについて……54
内蔵マイクについて……54
マイクや外部オーディオ機器を接続する……55

2 CD-ROMを使う……56
CD-ROMを使うときの注意……56
CD-ROMの出し入れ……57

3 マルチメディア機能を使う……58
CDプレーヤー……58
メディアプレーヤー……59
サウンドレコーダー……59
ボリュームコントロール……60

第4章 システムを拡張する

1 PCカードを使う……62
カード規格について……62
CardBus規格……62
ZVポート規格……62
カードサイズについて……63
カードの抜き差し……63
モデムを使う……65
LANカードを使う……65

2 ハードディスクドライブを交換する …………………………66
ハードディスクを取り外すには …………………………66
ハードディスクを取り付けるには …………………………67

3 外部キーボードやマウスを接続する …………………………68

4 外部モニタを接続する …………………………69
ディスプレイの種類を設定するには …………………………70

5 IrDAポートを使う …………………………71

6 USBポートを使う …………………………72
USBについて …………………………72
USB機器の取り付け …………………………72

第5章 システムの設定を変える(BIOS)

1 システムコンフィグレーションの設定 …………………………74
システムコンフィグレーションについて …………………………74
メニューと操作方法について …………………………75
日付と時刻を設定する …………………………76
起動方法を設定する …………………………77
各種入出力ポートを設定する …………………………77
入出力デバイスを設定する …………………………78
パスワードを設定する …………………………79
表示モードを設定する …………………………79
システムをチェックする …………………………80
システム情報を表示する …………………………80
システムコンフィグレーションのその他の設定 …………………………81

2 パワーマネージメント機能の設定 ……82
パワーマネージメント機能を設定する ……82
サスペンド機能を設定する ……83
スタンバイ機能を設定する ……83
スタンバイモード時のデバイス動作を設定する ……83
レジューム機能を設定する ……84
警告音を設定する ……84

3 設定内容と初期値一覧 ……85

第6章 トラブルが起きたら・・・

1 トラブルの原因と対処方法 ……90

Appendix

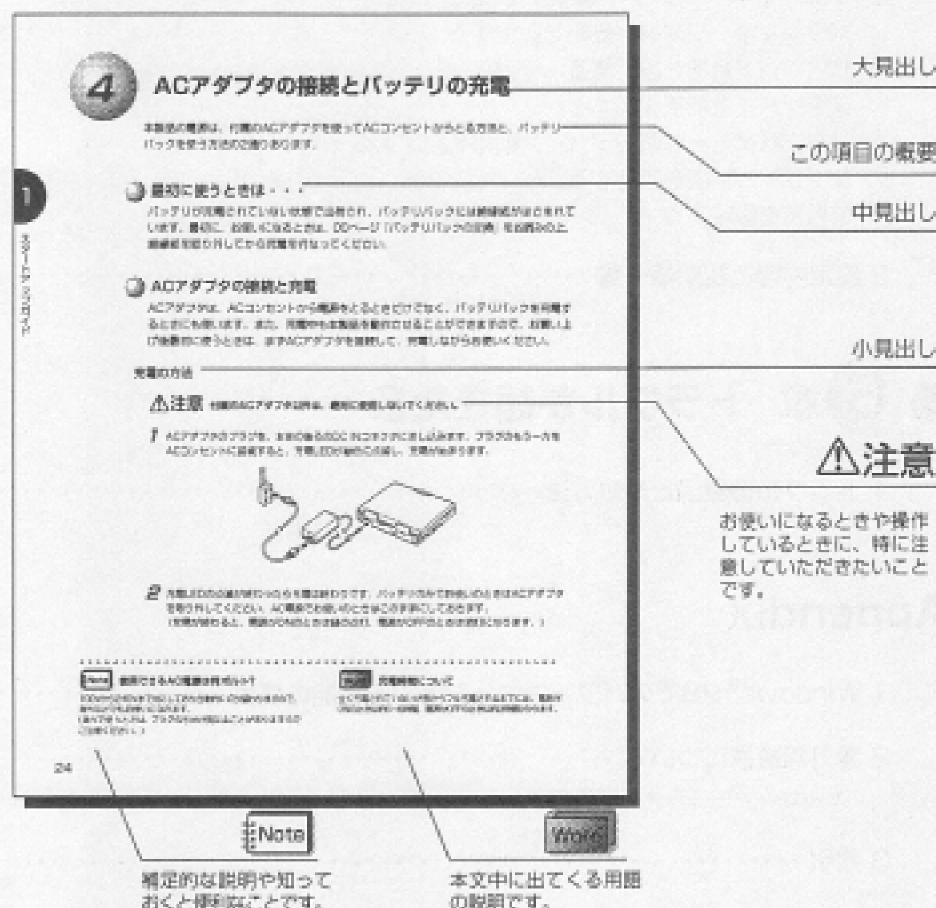
1 Windows®98でのパワーマネージメント機能の使用 ……96

2 赤外線通信について ……97
Windows®98のケーブル接続 ……97

3 索引 ……98

ユーザーズガイドの読みかた

各ページの構成は、次のようになっています。



インデックスについて

チャプターインデックス

各章ごとに付けられています。

クイックインデックス

開いているページの大見出しです。左右両ページに大見出しがあるときは2つ入っています。

チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく6つのセクションに分けられています。

付属品の確認から実際に電源を入れてWindows®を立ちあげるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。

スタートアップガイド 1

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードになれていない方は必ずお読みください。

キーボード操作になれよう 2

Windows®のマルチメディア機能、および本製品のサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたについて説明しています。

マルチメディアを楽しもう 3

PCカードの使いかた、ハードディスクを交換する方法、および外部周辺機器の接続方法について説明しています。

システムを拡張する 4

システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法について説明しています。

システムの設定を変える(BIOS) 5

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

トラブルが起きたら… 6

本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

Appendix

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作になれよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
マルチメディア機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 マルチメディアを楽しもう」「第4章 システムを拡張する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第6章 トラブルが起きたら…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、89ページの「第6章 トラブルが起きたら…」のページや、プレインストールされている「はじめにお読みください」をお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。

・お客様のお名前、連絡先
・本製品を購入された販売店、代理店の名称
・本製品のシリアル番号または製造番号（本製品底面のラベルに印刷してあります）
・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号	045-224-1125
FAX番号	045-224-1126
E-mail	support @ sotec.co.jp
営業日　：	月曜日～土曜日(但し、祝祭日および弊社指定休業日を除く)
受付時間：	月～金曜日　10：00～20：00
	土曜日　　　10：00～18：00

書面の郵送、または物品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包(梱包箱、パッキン)にてご返送ください。

〒245-0013 神奈川県横浜市泉区中田東1-5-5
株式会社キョウデンビーアンドオー内
ソーテック　サービスセンタ



ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

第1章

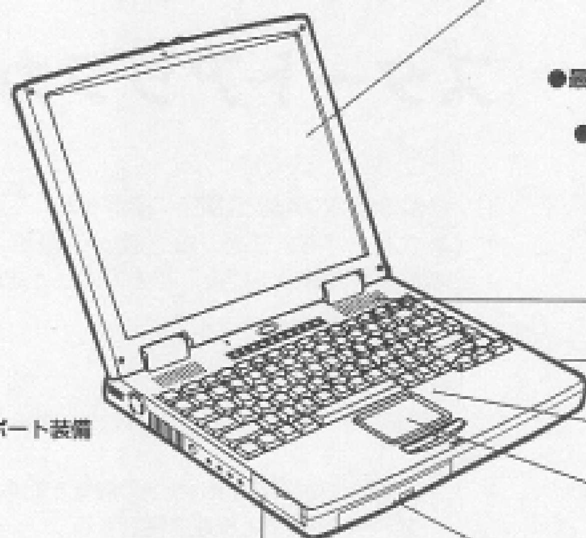
スタートアップガイド

各部の名前の確認と、実際に電源を入れてWindows®を立ち上げるまでを、順を追って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使うときには必ずお読みください。

1. WinBook Quattro/Xの機能を知る ……… 16
2. 各部の名前と機能を確認する ……… 18
3. ACアダプタの接続とバッテリの充電 ……… 24
4. 電源のON/OFFとリセット ……… 28
5. タッチパッドの使いかた ……… 30
6. Windows®の使いかた ……… 31
7. 画面の解像度などを変える ……… 35
8. スタンバイ機能とサスペンド機能を設定する ‥ 38
9. スピーカの音量を設定する ……… 40
10. フロッピーディスクドライブの使いかた ……… 41

1 WinBook Quattro/Xの機能を知る

WinBook Quattro/Xの主な機能や特長を紹介します。



●Windows®をプレインストール



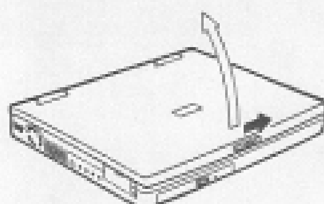
●インターネットエクスプローラをプレインストール

2

各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め

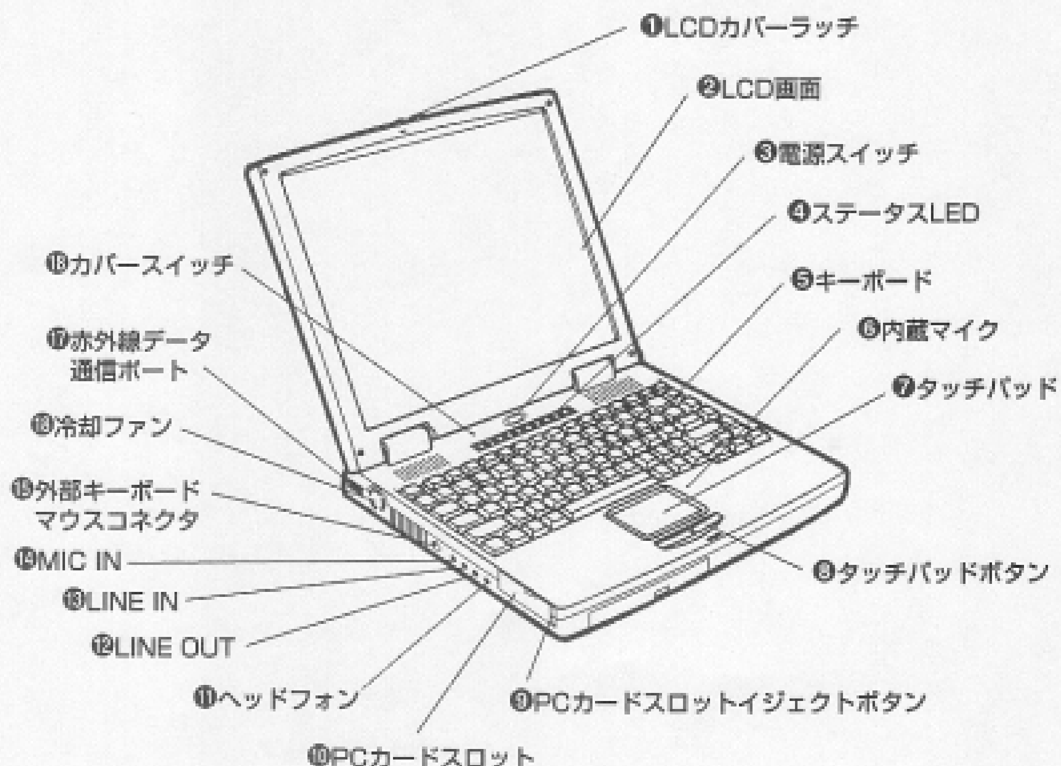


カバーを開けるときは、手前のラッチを右へスライドして、見やすい角度まで開きます。



カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。

前面/上面



1 スタートアップガイド

❶LCDカバーラッチ
ラッチを右へスライドして、見やすい角度まで開けます。
❷LCD画面
文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(➔ 84ページ)
❸電源スイッチ
電源をON/OFFすることができます。また、システムコンフィグレーションメニューの設定により、サスペンド状態にさせたり、サスペンド状態から動作状態に戻すことができます。(➔ 83ページ)
❹ステータスLED
動作状態を表示します。(➔ 23ページ)
❺キーボード
キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。
❻内蔵マイク
音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 54ページ)
❼タッチパッド
指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(➔ 30ページ)
❽タッチパッドボタン
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(➔ 30ページ)
❾PCカードスロットイジェクトボタン
カードイジェクトボタン押すと、カードが少し飛び出しますので、ゆっくり引き抜きます。
❿PCカードスロット
PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(➔ 62ページ)
⓫ヘッドフォン
ヘッドフォンを接続します。音声はステレオで出力されます。
⓬LINE OUT
コンピュータ内部の音声を外部に出力します。
⓭LINE IN
CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 55ページ)

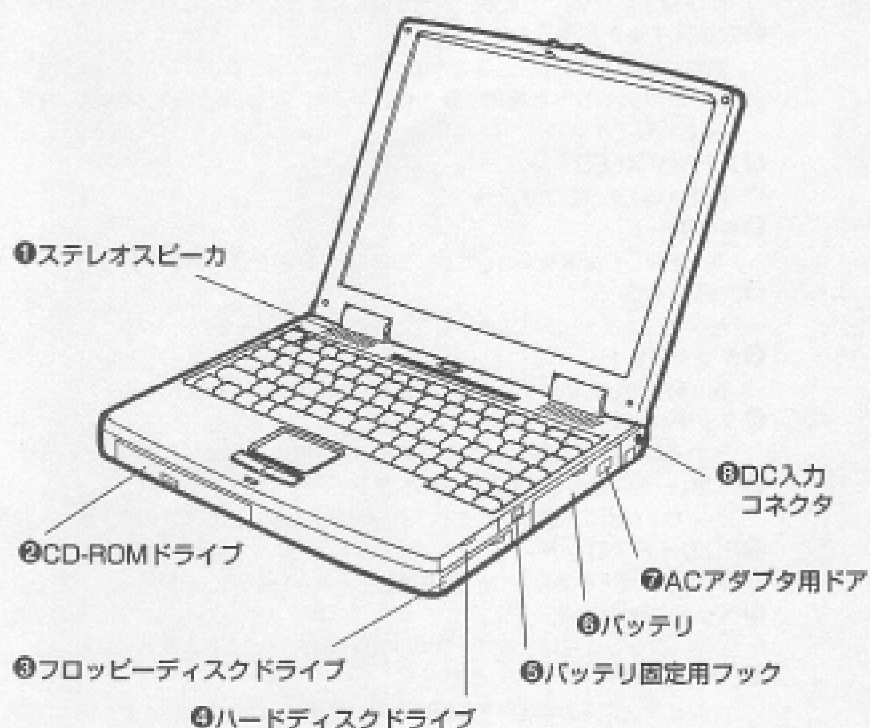
⚠注意 突然大きな音が鳴り聴力障害を起こすおそれがありますので、音量には注意してください。(➔ 55ページ)

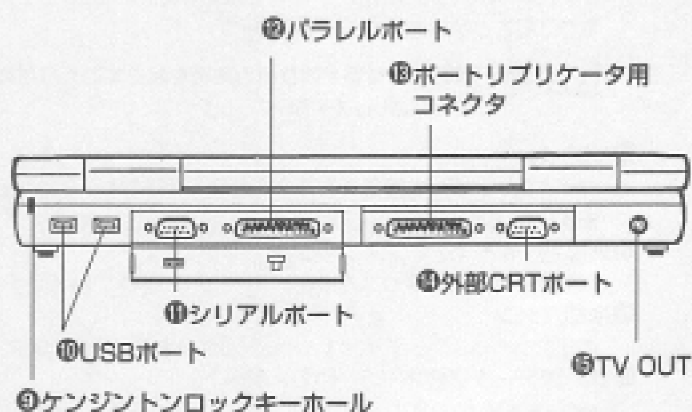
⓮MIC IN
マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 55ページ)
⓯外部キーボード/マウスコネクタ
PS/2キーボードやマウスを接続することができます。(➔ 68ページ)
⓰冷却ファン
内部コンポーネントがオーバーヒートしないように冷却します。
⓱赤外線データ通信ポート（IrDAポート）
他のノートパソコンやプリンタなどに大量のデータを高速に伝送するためのポートです。(➔ 71ページ)
⓲カバースイッチ
カバーを閉じるとLCDバックライトを消します。

⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。

右側面・後面

ラッチを右へスライドしながら、カバーを開けてください。





❶ステレオスピーカ

ステレオスピーカです。(➔ 54ページ)

❷CD-ROMドライブ

CD-ROMを挿入します。(➔ 57ページ)

❸フロッピーディスドライブ

フロッピーディスクドライブを接続できます。

❹ハードディスクドライブ

ハードディスクを取り出すときに、ドアを開けます。着脱可能な2.5インチハードディスクドライブが収納されています。

❺バッテリ固定用フック

バッテリパックを取り出すときは、このフックをスライドさせてフックロックを削除します。(➔ 26ページ)



ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリパックを取り出さないでください。

❻バッテリ

バッテリを取り出すときに、カバーを開けます。内蔵ACアダプタをこのスロットにインストールできます。

❼ACアダプタ用ドア

内蔵ACアダプタを使用するときにこのドアを開けます。

❽DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(➔ 24ページ)

❾ケンジントンロックキーホール

盗難防止用のロックに使用するための鍵穴です。

❿USBポート

USB規格準拠の周辺機器を接続します。(➔ 72ページ)

⓫シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM2」～「COM4」に変えることができます。(➔ 77ページ)

⓬パラレルポート

プリンタを接続します。パラレルポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで他の設定に変更できます。(➔ 78ページ)

⓭ポートリプリケータ用コネクタ

別売のポートリプリケータを接続します。

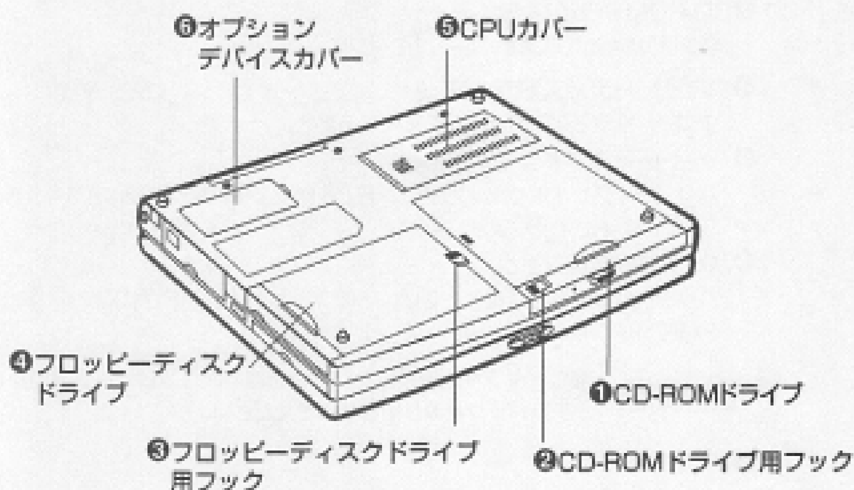
⓮外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(➔ 69ページ)

⓯TV OUT

コンピュータ内部のデジタル画像を外部テレビに出力します。

底面



❶CD-ROMドライブ

CD-ROMドライブを取り出すときに引き出します。

⚠注意 ドライブを交換するときは、必ず電源をOFFにしてください。

❷CD-ROMドライブ用フック

CD-ROMドライブを取り出すときに、フックロックを解除します。

❸フロッピーディスクドライブ用フック

フロッピーディスクドライブを取り出すときに、フックロックを解除します。

❹フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブを取り出すときに引き出します。

⚠注意 ドライブを交換するときは、必ず電源をOFFにしてください。

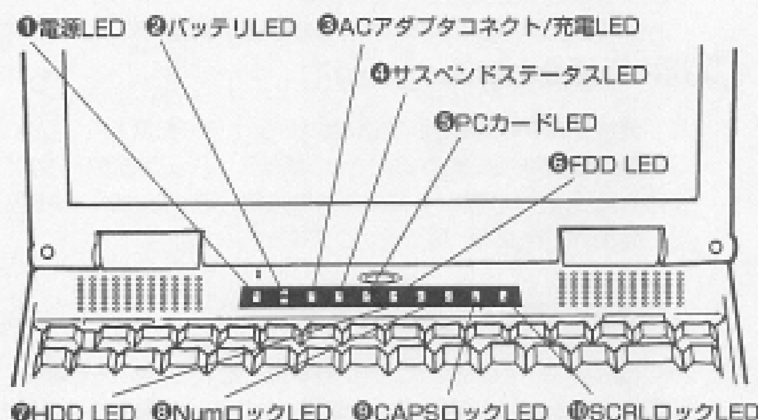
❺CPUカバー

❻オプションデバイスカバー

オプションデバイスの取り付け、取り外しのときに、カバーを開けます。

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



❶電源LED	ACアダプタが接続されているときに点灯します。
❷バッテリLED	バッテリA/Bの充電・放電状態を表示します。(➔ 25ページ)
❸ACアダプタコネクト/充電LED	ACアダプタが接続されており、バッテリが充電中のときは、オレンジ色に点灯します。フル充電状態になると緑色に点灯します。(➔ 25ページ)
❹サスペンドステータスLED	サスペンドモードのときに点灯します。
❺PCカードLED	PCカードスロットがアクセス中に点灯します。
❻FDD LED	フロッピーディスクドライブやSuperDisk（LS120）へのアクセス中に点灯します。
❼HDD LED	ハードディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
❽NumロックLED	[NumLk] キーがロック状態のときに点灯します。この状態で[Fn]キーと併用することでニューメリックキー(テンキー)が使えます。
❾CAPSロックLED	[Caps Lock] キーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
❿SCRLロックLED	[ScrLK] キーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

⚠注意　HDD/FDD LEDが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。

3 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは・・・

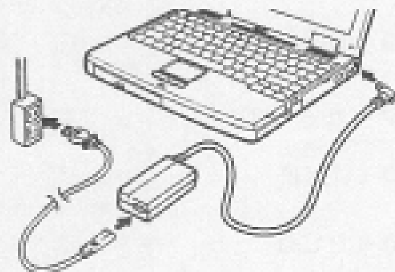
バッテリはフルに充電されていない状態(十分に充電されていない状態)で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、電源を入れて、自動的にサスペンドモードに入るまで放電してください。(ACアダプタは接続しないでください。)その後、電源を切ります。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

⚠注意 付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。

1 ACアダプタのプラグを、本体右側面のDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、電源LEDとバッテリLEDが点灯し、充電が始まります。また、ACアダプタコネクト/充電LEDがオレンジ色に点灯します。



2 ACアダプタコネクト/充電LEDが緑色になったら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。

Note 使用できるAC電源は何ボルト?

本製品に添付のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。)

Note 充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、3~4時間かかります。

バッテリLEDの意味

点灯	バッテリが充電中の状態です。(ACアダプタが接続されていない場合は、放電中です。)
消灯	バッテリの充電が行われていない状態です。

ACアダプタコネクト/充電LEDの意味

緑色の点灯	ACアダプタが接続されており、バッテリがフルに充電されている。
オレンジ色の点灯	ACアダプタが接続されており、バッテリが充電中の状態です。
消灯	ACアダプタが接続されていない状態です。

バッテリ残量が少なくなったときは・・・

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順序で警告を発します。

バッテリ残量10% ▶	1.5秒おきにビープ音が鳴り、電源LEDが2秒おきに点滅します。
バッテリ残量3% ▶	より短い間隔でビープ音が鳴り、電源LEDが1秒おきに点滅します。
バッテリ残量がなくなった ▶	強制的にサスペンド状態に入ります。(➜ 38ページ)

警告が発せられたら・・・
●ACアダプタを接続して充電する
●充電済みのバッテリパックと交換する

⚠注意 **バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず26ページの説明にしたがって交換してください。**

⚠注意 **バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。ビープ音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。**

Note **バッテリを節約するには・・・**

・使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
・パワーマネージメント機能を活かす。
・サスペンド機能を有効にする。
・なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

Note **バッテリの性能を最大限に引き出すには・・・**

ときどきバッテリを完全に放電させると、バッテリが良好に保たれ、バッテリの性能を最大限に引き出せます。

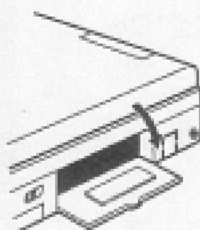
バッテリパックの交換

⚠注意　付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行なわないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります。

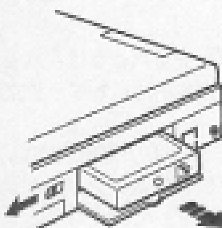
2~5ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源がOFFのとき、もしくはサスペンド時かACアダプタで電源を供給しているときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯している事を確かめてください。

1 バッテリパックのドアを開けます。



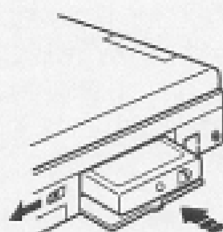
2 バッテリパック固定用フックを、図の矢印の方向にスライドさせながらバッテリパックのイジェクトグリップを引きだして、バッテリパックをスライドさせて取り外します。



Word サスペンド

サスペンド機能とはアプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、サスペンド状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能の設定方法は、「スタンバイ機能とサスペンド機能を設定する」の項目をご覧ください。（➔38ページ）

3 バッテリパック固定用フックを図の矢印の方向にスライドさせた状態で、交換用のバッテリパックをスロットに挿入します。



4 バッテリパック固定用フックがロックされ、バッテリパックが確実に装着されているのを確認します。

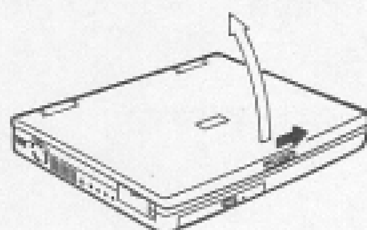
5 バッテリパックのドアを閉めます。

4 電源のON/OFFとリセット

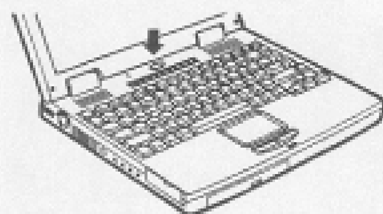
電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。サスペンドさせる場合はセットアップメニューで設定を変更してください。

電源のON/OFF

1 本体の前面にあるラッチを右へスライドしてカバーを開いてください。



2 本体の上部にある電源スイッチを押し込みます。
電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを押し込みます。
または、Windows®から[Windowsの終了]を選択したときに表示される[Windowsの終了]ダイアログボックスから[電源を切れる状態にする]をチェックして[はい]を選択しても、自動的に電源がOFFになります。



お買い上げ後初めて電源をONにしたときは、Windowsセットアッププログラムが起動します。タッチパッドの使いかた(➔30ページ)を覚えてから、セットアップを実行してください。



HDD/FDD LEDが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。



ACアダプタコネクト/充電LEDの意味

緑色の点灯　　　:バッテリがフルに充電されている状態
オレンジ色の点灯:バッテリ充電中
消灯　　　　　　:ACアダプタが接続されていない状態

コンピュータをリセットする

新しいドライバを組み込んだり、周辺機器を追加したときなどは、それらを認識させるためにコンピュータを再起動させる必要があります。
通常、Windows®の場合は、ドライバを組み込む時や周辺機器を追加してハードウェアウィザードを実行するときなどに再起動を促すメッセージが表示され、[OK]もしくは[はい]をクリックすることで再起動させることができます。
また、[スタート]メニューからWindows®を終了させるときに「再起動する」を選んで再起動させることもできます。
再起動させるには、このような方法以外にも、ソフトウェアリセットとハードウェアリセットの2通りの方法があり、それぞれの状況に応じてどちらかを実行します。

⚠注意 **むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させないとデータが消失したり、作業ファイルが残ったままになる場合があります。**

ソフトウェアリセット

新しいドライバを組み込んだり、MS-DOSモードでの使用時にAUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSを書き換えるなど、おもにソフトウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行なってリセットさせます。

[Ctrl]と[Alt]と[Del]キーを同時に押す

ハードウェアリセット

ソフトウェアリセットでもリセットできないときは、電源スイッチを押し込んでOFFにします。

⚠注意 リセットすると、保存されていないすべてのデータは消えてしまいます。

⚠注意 サスペンドの実行中にハードウェアリセットを行うと、保存されていないデータは消えてしまいます。

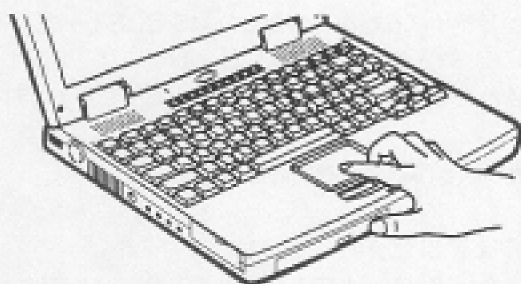
5 タッチパッドの使いかた

本製品には、マウスと同じ役割を果たす「タッチパッド」と左右2つのボタンが装備されています。Windows®では、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

⚠注意
- ペン先などの先の尖ったもので触れたり表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
- 2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂やよごれによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、充分よごれを取りのぞいてからご使用ください。
- ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

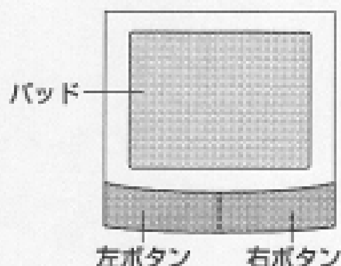
画面のポインタを動かすには・・・

タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。



クリック、ダブルクリック、ドラッグするには・・・

クリックとは、ボタンを1回押すことです。パッド上を1回たたくことでもクリックできます。ダブルクリックとは、ボタンを2回押すことです。パッド上を2回たたくことでもダブルクリックできます。
ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを1回押しながら（パッドを1回たたき）指をパッドから離さず動かしていきます。

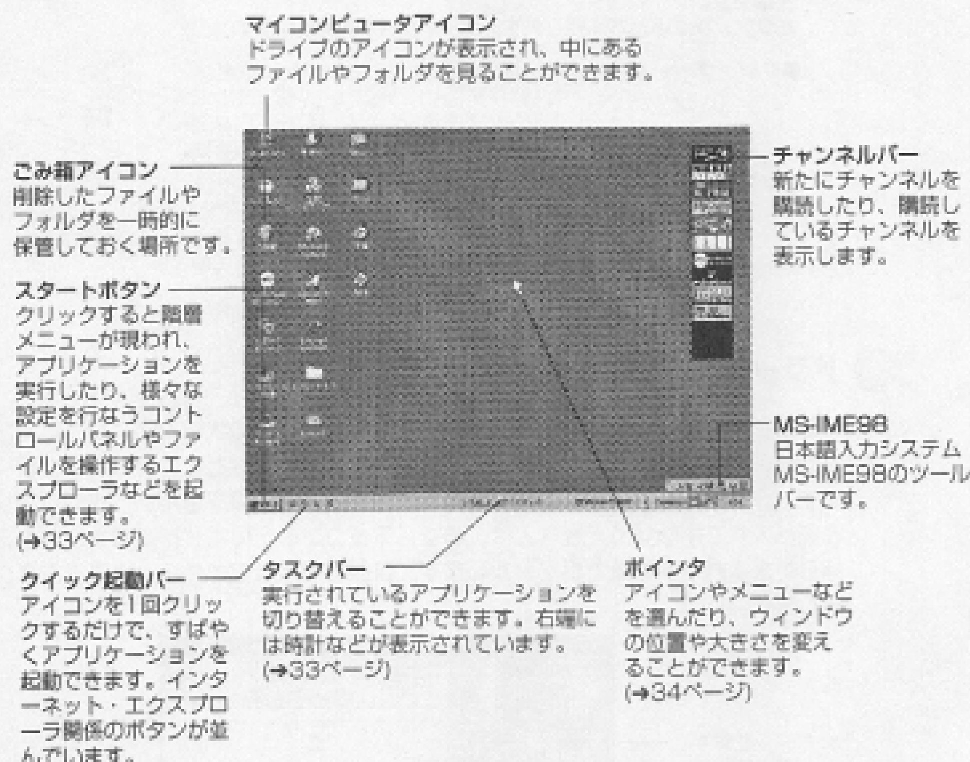


6 Windows®の使いかた

Windows®は、アイコンやボタンをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウからウィンドウへの文字や画像のコピーも簡単にできます。また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行できます。ここでは、アプリケーションの起動方法などWindows®の基本的な操作方法について説明します。詳しい使い方については、付属のWindows®のマニュアルや、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

Windows®の画面について

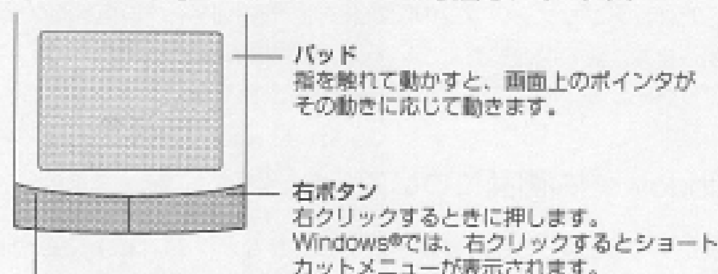
画面はWindows®98の画面を使用しておりますが、以下に説明している内容はWindows®NTでも同様の動作をします。



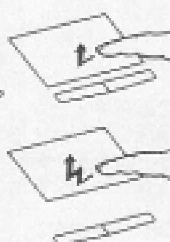
電源をONにするとWindows®の起動画面が表示され、しばらくするとアイコンやタスクバーと呼ばれるものが表示されます。この画面を「デスクトップ」といいます。Windows®では、このデスクトップ上でアプリケーションを実行し、いろいろな作業を行ないます。

クリックとダブルクリック

Windows®では、文字を入力する以外のほとんどすべての操作を、ポインタ(マウスカーソルともいいます)を使って行ない、アイコンやメニューの上にポインタをのせてクリックすることで処理を実行できます。
クリックとは、マウスのボタンを押すことで、本製品には、マウスと同じ役割を果たす「タッチパッド」と左右2つのボタンが装備されています。



左ボタン
左クリックするときに押します。クリックは2種類あります。

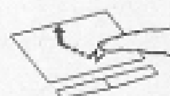


- ●クリック・・・・・・・パッドを1回たたくこと（またはボタンを1回押すこと)。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロなどで文字入力の位置を決めるのに使います。
- ●ダブルクリック・・・パッドを2回たたくこと（またはボタンを素早く続けて2回押すこと)。アイコンを選んでアプリケーションを起動するときや、なにかの処理を実行するときに使います。

ドラッグ & ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、その場所に置くことです。ファイルやアプリケーションのアイコンなどを別のフォルダへ移動したり、ごみ箱へ入れて削除するときなどは、まず、アイコンの上にポインタのせ、左ボタンを押したままパッドの上で指を動かします。目的の場所まできたら、そこで左ボタンを離します。

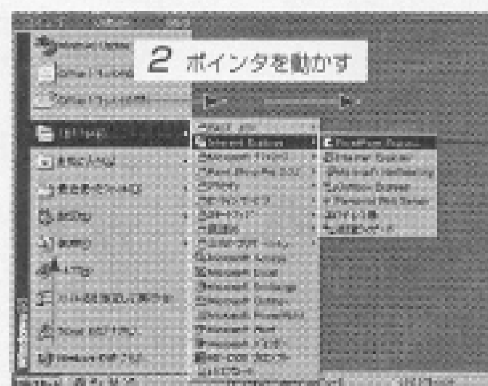




左ボタンを押したまま動かす

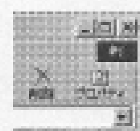
アプリケーションを起動する

アプリケーションを起動するには、スタートボタンをクリックすると現われるスタートメニューを使います。
マイコンピュータやエクスプローラから、アプリケーションのアイコンをダブルクリックして起動させる方法もあります。



1 [スタート]ボタンをクリック

アプリケーションを終了する



アプリケーションを切替える

実行されているアプリケーションはすべて、タスクバーにボタン表示されています。
ウィンドウの後ろに隠れているアプリケーションを一番前に表示させたり、最小化されているアプリケーションをウィンドウ表示して使えるようにするにはタスクバーを使います。



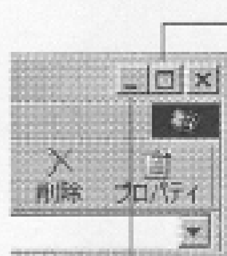
ウィンドウを操作する

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で動かしたい方向に指を動かします。



ウィンドウの大きさを変える

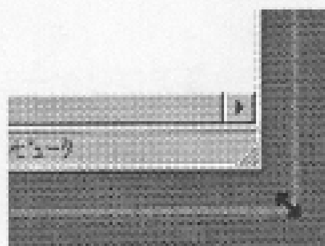


[最大化]ボタンをクリック
画面いっぱいに表示します。元の大きさに戻すときは ボタンをクリックします。

[最小化]ボタンをクリック
ウィンドウを閉じます。終了とは異なり、アプリケーションは実行されており、タスクバーのボタンをクリックすることで再び表示させることができます。

ウィンドウの大きさを自由に変える

ウィンドウの枠にポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で指を動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます。
(最大化の状態では、変えることはできません。)



1 スタートアップガイド

7 画面の解像度などを変える

解像度・色数・フォントサイズを指定する場合には、「画面のプロパティ」で設定を変更します。ここでは主にWindows®98の画面について説明します。

出荷状態の設定

製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	:本体LCD表示のみ
デスクトップ領域(解像度)	:1024×768ピクセル
カラーパレット（色数）	:High Color(16ビット)65,536色
フォントサイズ	:小さいフォント・・・16ドット

設定を変更する

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[設定]を選びます。





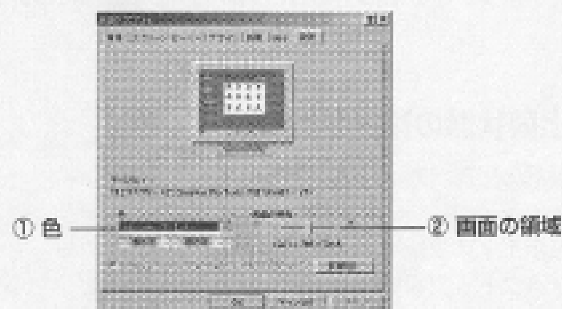
表示させるディスプレイを変えるには

一時的に変更する場合は、Fn+F12を押すと(LCD→CRT→同時表示)の順で切り替わります。常時一定の表示を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行ないます。

なお、同時表示の場合はLCD用表示回路の動作がCRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 各設定を変更します。

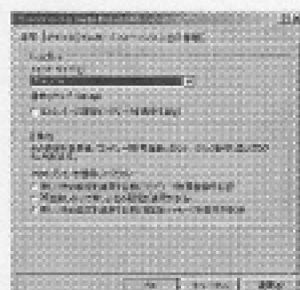
デスクトップ領域(解像度)は、本体LCD表示の場合「1024×768ピクセル」「800×600ピクセル」、「640×480ピクセル」に加え、「ディスプレイの種類」の設定を変更することにより、「1024×768ピクセル」も選ぶことができるようになります。



①色　表示する色数を選びます
256色
High Color(16ビット)・・・65,536色
True Color(32ビット)・・・1677万色

②画面の領域　デスクトップの大きさ(解像度)を選びます。
640×480ピクセル
800×600ピクセル
1024×768ピクセル

4 「設定画面」の[詳細]をクリックして、[全般]タブを選択します。



フォントサイズ　表示するフォントサイズを選びます。
小さいフォント
大きいフォント(640×480ピクセルの場合は選択できません)

5 [OK]をクリックします。

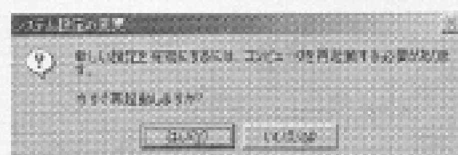
6 「設定画面」の[閉じる]をクリックします。

Note **「画面のプロパティ」での「画面の領域」と「色」の対応は下記の通りです。**

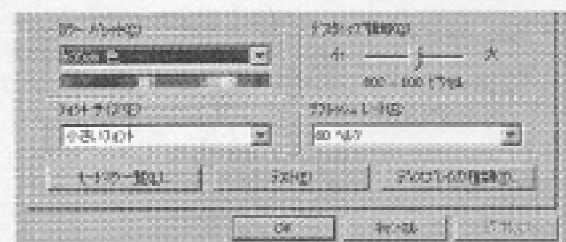
画面の領域	色
640×480ピクセル	256色~True Color(32ビット、1677万色)
800×600ピクセル	256色~True Color(32ビット、1677万色)
1024×768ピクセル	256色~High Color(16ビット、65,536色)

色・画面の領域・フォントサイズを変更した場合

Windows®98の場合、再起動する必要があります。[はい]をクリックします。

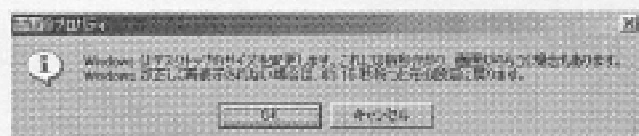


Windows®NTの場合、「テスト（E）」をクリックして、正常に表示されることを確認し、「適用」もしくは[OK]をクリックしてください。



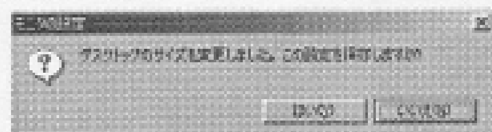
画面の領域(解像度)のみ変更した場合

Windows®98の場合、サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックすると数秒後に変更されます。



▼

変更したサイズを保存するときは[はい]をクリックします。



Note　**外部ディスプレイに表示させるときは**

Windows®をいったん終了させ、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコンフィグレーションでディスプレイ表示の設定を行なってからWindows®を起動します。(➔79ページ)

8 スタンバイ機能とサスペンド機能を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

スタンバイ機能の設定

本製品には、CPUスピードを落とし、ハードディスクドライブ・LCD画面・LCD画面のバックライトの電力消費を最少にする「スタンバイ機能」が搭載されています。また、電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存して、電源をONにしたときには、OFFにする直前の状態に復帰する「サスペンド機能」が搭載されています。
スタンバイ機能は、少しの間席をはずすときなどに、バッテリの浪費を抑えるのに役立ちます。また、サスペンド機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロをいったん終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。

スタンバイ機能は、次の手順で設定します。

手動でスタンバイモードに入る方法

1 スタートボタンをクリックします。
2 「Windowsの終了」をクリックします。
3 「スタンバイ」をチェックします。
4 [OK]をクリックします。

自動的にスタンバイモードに入る方法

1 スタートボタンをクリックします。
2 [設定]の[コントロールパネル]をクリックします。
3 「電源の管理」アイコンをダブルクリックします。
4 「電源設定」のタブをクリックします。
5 「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

6 「ポータブル/ラップトップの電源の設定」で、「システムスタンバイ」欄にそれぞれの時間を設定します。

7 [OK]をクリックします。

設定した時間コンピュータを操作しないでいると、自動的にスタンバイモードに入ります。
スタンバイモードからもとの状態に戻すには、電源ボタンを1回押します。

サスペンド機能の設定

手動でサスペンドモードに入るには、電源ボタンを1秒間押しつづけます。

自動でサスペンドモードに入るための設定方法は、このマニュアルの第5章「システムの設定を変える(BIOS)」の「パワーマネージメント機能の設定」を参照してください。

サスペンドモードからレジュームするには、電源ボタンを1回押します。

⚠注意 Windows®NTでは、サスペンドモードは使用できません。

Note サスペンド機能とレジューム

サスペンド状態から再度電源をONにし、作業を中断した状態まで復帰することを、レジュームといいます。

9 スピーカの音量を設定する

スピーカの音量の調節

本体には、ステレオスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量を調節するには、次のようにします。

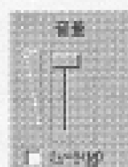
Windows®でスピーカの音量のみ調節するとき

タスクバーの を左クリックする



▶

つまみをドラッグして調節する(「ミュート」をチェックすると音声が消えます)



Windows®で左右のバランスや音源ごとに調節するとき

タスクバーの を右クリックする



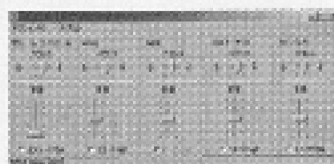
▶

[音量コントロールを開く]を左クリックする



▼

ボリュームコントロール(ミキサー)の各音源のつまみをドラッグして調節する



音量の調節は Fn + F3 、 Fn + F4 でも一時的に調節が可能です。
使用するアプリケーションおよびPCカード、モデムカードによっては別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調節してください。

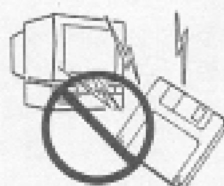
10 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブが付属しています。ここでは、フロッピーディスクの取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

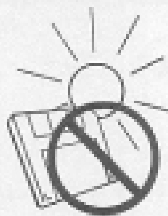
フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、コンピュータの電源をオフにする前に必ずドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

⚠ 注意



テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。



内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。



ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます。)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

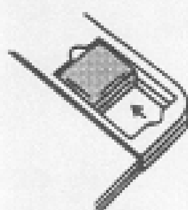


読み書きできるフォーマットは?

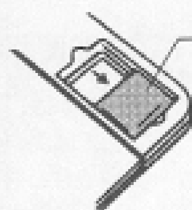
出荷時のままの状態では、2DD(両面倍密度倍トラックタイプ)の720KB、2HD(両面高密度倍トラックタイプ)の1.44MB・1.2MBの各フォーマットのフロッピーディスクを読み書きできます。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。



書き込み可能状態

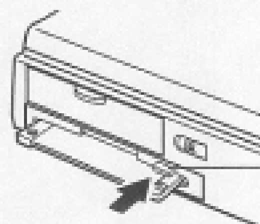


書き込み禁止状態

- 書き込み禁止ノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
- 書き込み禁止ノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にして、ドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。



フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。
フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

Note **1.2MBでのフォーマットは？**

1.2MBのフロッピーディスクのフォーマットは行なえません。1.2MBのフロッピーディスクを認識可能にする、3モードドライバ（出荷時インストール済）はリード/ライトのみをサポートするものです。また、1.2MBのディスクから起動することもできません。

3モードドライバはWindows®98上でのみサポートしており、MS-DOS上ではサポートしていません。

第2章

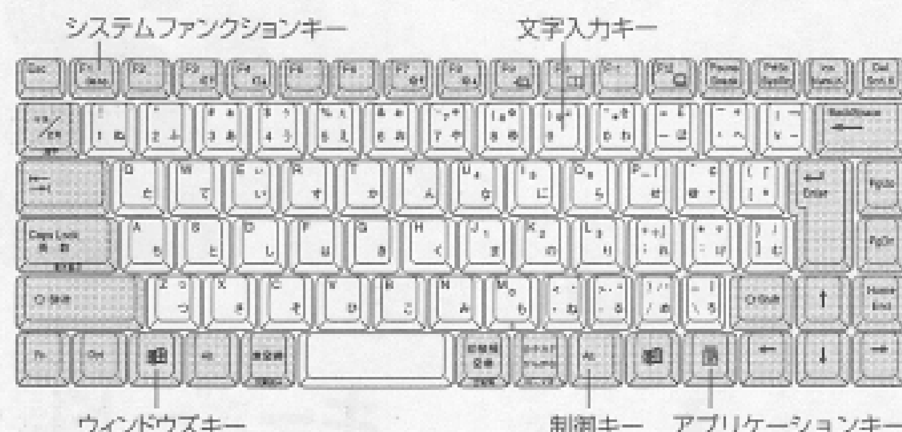
キーボード操作になれよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作になれていない方は必ずお読みください。

1.　キーボード各部の名前と機能 ……………44
2.　文字を入力する ………………………50

1 キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。



キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

文字入力キー

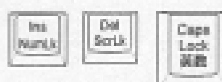
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。
1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、Caps Lock Shift NumLk ひらがな カタカナ の各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使いかたについては、57ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(アミの部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。
これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

Note ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。(→P23)



システムファンクションキー(アミの部分)

制御キーの一つであるFnキー、ファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、スピーカの音量を調節できます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

ビープ音を鳴らす、鳴らさないを切り替える。

Fn + F1　1回押すごとに、ビープ音を鳴らす、鳴らさないを切り替えられます。

パワーマネージメントのレベルを調整する

Fn + F2　1回押すごとに、パワーマネージメントのレベルが4段階に切り替わります。

スピーカの音量を調節する

Fn + F3 または F4　F3を1回押すごとに内蔵スピーカからの音量が下がります。F4を1回押すごとに内蔵スピーカからの音量が上がります。

ディスプレイの輝度(バックライト)を変える

Fn + F7 または F8　F7を1回押すごとに、輝度(バックライト)が下がります。F8を1回押すごとに、輝度が上がります。

画面の拡大モードを切り替える。

Fn + F10　1回押すごとに、1024×768未満の画面表示を行う時、画面一杯に広げて表示するかどうかを切り替えます。

LCD表示かCRT（外部モニタ）表示かを切り替える

Fn + F12　1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD·CRT同時の順に切り替わります。ディスプレイについては、69ページをお読みください。

アプリケーションキー

タッチパッドの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

Windows®キー

単独で押すとWindows®「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows®の代表的な機能がすぐに使えます。

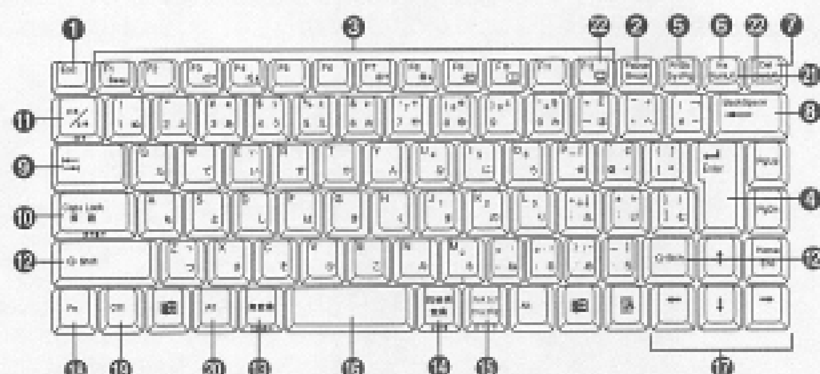
+[F1]	Windows®のヘルプを表示
+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
+[E]	エクスプローラの起動
+[F]	ファイル検索起動
+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面表示
+[M]	ウィンドウの最小化
+[R]	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを表示
+[Pause]	「システムのプロパティ」ダイアログボックスを表示

2 キーボード操作になれよう

Note Windows®でサポートされないキーについて

文字入力キーのうち、£、々、¬、¢、『 』、、、¦の8つの記号はキーボードから入力できません。これらの文字については、日本語入力システムの文字パレットなどの機能を使い、文字を入力してください。なお、" の文字は[Shift]+[2]で入力できます。

各キーの機能



中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ESC(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー

F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行させることができます。

画面のハードコピーをとったり、Windows®の画面を取り込むのに使います。

❺PrtSc(プリントスクリーン)キー

Windows®を使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❾Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。[Shift]+[Tab]キーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。[Shift]キーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows®98の日本語入力システムMS-IME98では、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン、オフになります。Windows®NTでは1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、[Alt]キーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換しないときに押しながらキー入力します。

⓮変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときは[Shift]キーと同時に押すと切り替わります。また、[Ctrl][Shift]キーと同時に押すとカナキーのON／OFFを切り替えることができます。

⓰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース（空白）を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓱カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向に、カーソルを移動するときに使います。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に青い文字で表記されている機能を使うときに、同時に押します。

⓳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

⓴Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

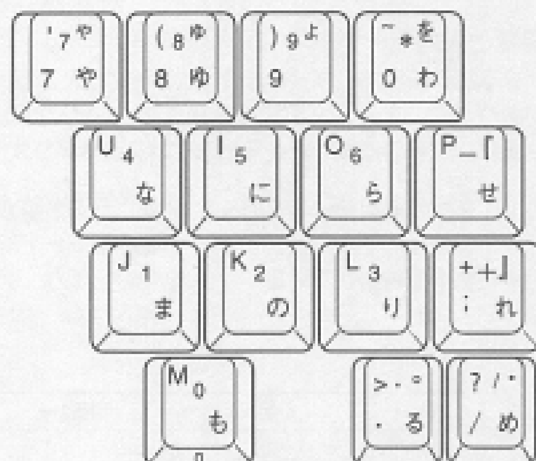
Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能を変えることができます。

㉑NumLk(ナンバーロック)キー【ロックされます】
Fnキーと併用することで、キーボードの右半分を数字キーとして使えるようになります。

㉒ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】
キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの働きを変えることができます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、FnキーとNumLkキーを押すことで、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができるので便利です。



2 文字を入力する

入力方法について

ローマ字入力とかな入力

ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときはKとAを続けて押すことで「か」が入力できます。
かな入力は、入力するキーをそのまま押してかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
どちらの方式で日本語入力システム(IME)を起動するかは、[MS-IME98のプロパティ]の中で設定します。

また、ローマ字入力のときに[Ctrl]と[英数]を同時に押すと、カナキーがONになり、一時的にかな入力できるようになります。(かな入力のときは、カナキーのON/OFFを切り替えるだけで、ローマ字入力にはなりません。)

文字の種類と入力モード

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。文字の種類を変える方法には2通りあります。

・入力前に文字の種類を決めておく‥切替キーを押すか、ツールバーの[入力モード]ボタンでモードを選んでから入力する

・入力後に文字の種類を決める‥‥‥全角ひらがな・カタカナモードで文字を入力してから[F6]～[F10]キーで希望の文字種に変換する

モード	画面表示	切替キー	変換キー
全角ひらがな	あ	[ひらがな]	[F6]
全角カタカナ	ア	[Shift]＋[カタカナ]	[F7]
半角カタカナ	ｱ	[Shift]＋[カタカナ][半角/全角]	[F8]
全角英数	Ａ	[英数]	[F9]
半角英数	A	[英数][半角/全角]	[F10]

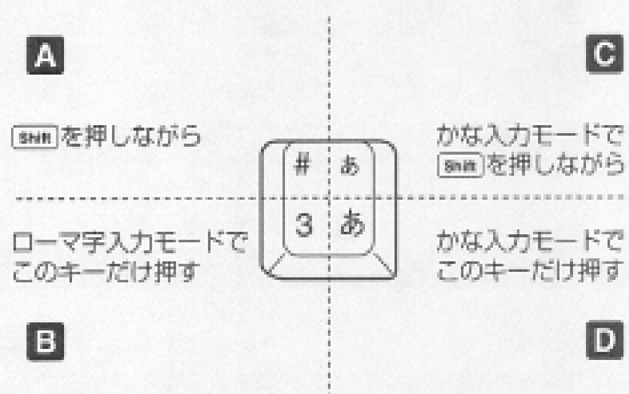
※ひらがなと漢字には全角文字しかありません。また、半角カタカナ・半角英数から全角文字に切り替えるときは[半角/全角]キーを押します。

漢字の入力

日本語入力システム(IME)が立ち上がっているときに、ひらがなで入力してから[変換]キーを押すと漢字に変換されます。もう一度[変換]キーを押すと別の漢字が表示され、さらに[変換]キーを押すと候補一覧が表示されます。詳しい操作方法については、付属のWindows®マニュアルのMS-IME98の項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CpLk Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。



文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがな(あ、い、う)				
カナ入力		あ	[ひらがな]	文字キー D
ローマ字入力		あ	[ひらがな]	文字キー A
小さいひらがな(っ、ゃ、ゅ、ょなど)				
カナ入力		あ	[ひらがな]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		あ	[ひらがな]	文字キー A の前に[X]
大きいカタカナ(ア、イ、ウ)				
カナ入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー D
ローマ字入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A
小さいカタカナ(ッ、ャ、ュ、ョなど)				
カナ入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A の前に[X]
アルファベット小文字(a、b、cなど)＊1				
ローマ字入力		A A	[英数]	文字キー A
アルファベット大文字(A,B,Cなど)＊1				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	A A	[英数]	[Shift]+文字キー A
	連続して入力	A A	[Shift]+[英数]	文字キー A
かな記号(。、・「」など)				
カナ入力・ローマ字入力		あ ア ア	[ひらがな]	記号キー A B C
英記号(!,@,#,$,%,^,&,*など)＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		[Shift]+記号キー A B C
数字＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		数字キー B ＊2

＊1　カナ入力の場合は、カナキーをOFFに切り替えてから入力します。

＊2　[Fn]キーと同時に[NumLk]キーを押すことにより、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

Note　大文字/小文字モードに固定するには

[Shift]キーを押しながら[CapsLk]キーを1回押すと、「CAPSロック」がON・OFFされ、大文字固定入力(ON)と小文字固定入力(OFF)が切り替わります。ON・OFFの状態は、本体のステータスLEDか、ツールバーのインジケータに示されます。

Note　1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

[Shift]キーを押しながらアルファベットキーを押すと、固定入力のモードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードで[Shift]キーと[A]を同時に押すと「a」を入力できます。

第3章

マルチメディアを楽しもう

Windows®のマルチメディア機能、および本製品に搭載されているサウンド機能、CD-ROMドライブの使いかたなどについて説明しています。

1. サウンド機能を使う ……………………54
2. CD-ROMを使う ………………………56
3. マルチメディア機能を使う ………………58

1 サウンド機能を使う

本製品には、サウンドブラスタPRO互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やステレオスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

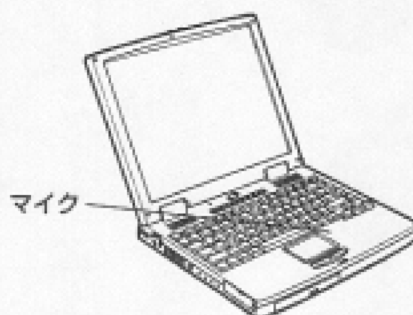
内蔵スピーカについて

本体にはステレオスピーカが内蔵されています。 このスピーカからは次の5種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、Windows®のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
PCカード	PCカードから発生する音声です。 音声出力機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。 (モデムカードなど)
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	内蔵マイクやマイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。

内蔵マイクについて

本体上面にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。



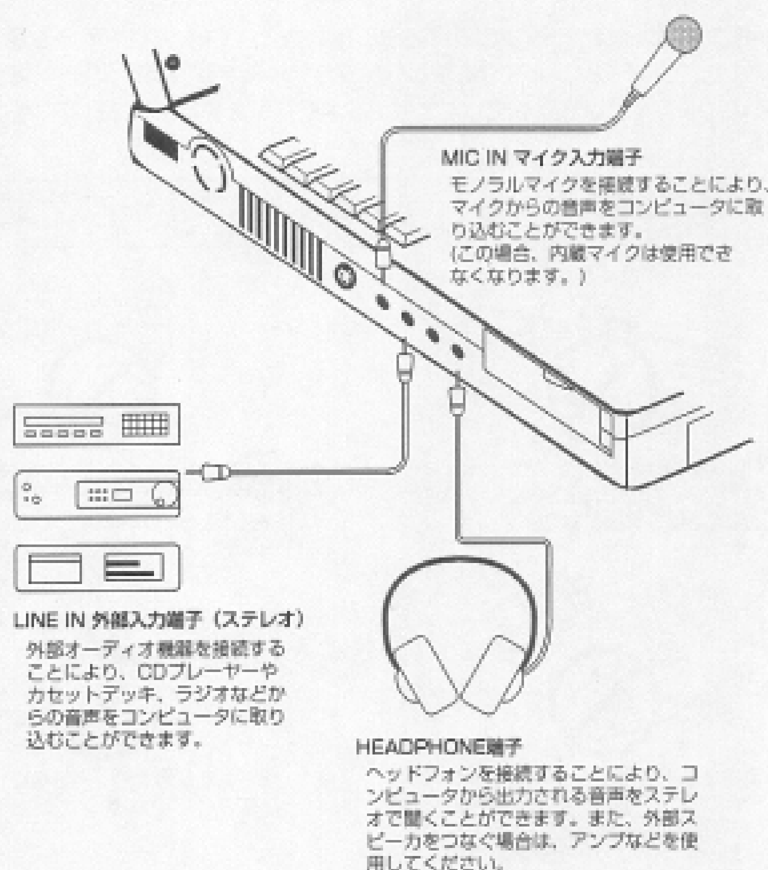
⚠注意 **内蔵マイクのボリュームを最大にして録音すると、スピーカとハウリングを起こして正しく録音されない場合があります。適切なボリュームで録音してください。**


音量を調節するには

スピーカの音量は、タスクバーの をクリックし、表示されるボリュームコントロールで調節できます。

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の左側面には、マイクや外部スピーカ、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。



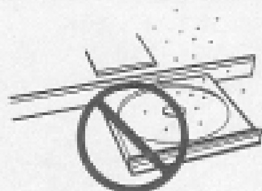
2 CD-ROMを使う

CD-ROMを使う方法について説明します。

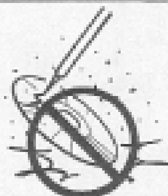
CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

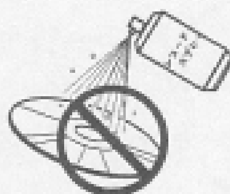
⚠注意



トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。



強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。



清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必らずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。



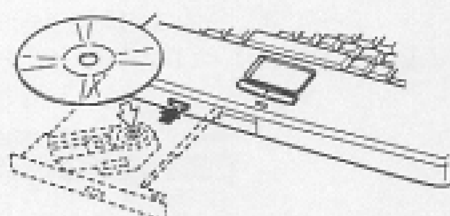
ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

CD-ROMドライブの中には輸送用のストッパーが付いています。ご使用前に必ず外してください。

CD-ROMの出し入れ

1 コンピュータ本体の電源をONにします。

2 イジェクトボタンを押します。



3 CD-ROMをセットします。文字が書かれている面を上にして、トレーにCD-ROMを確実に固定してください。

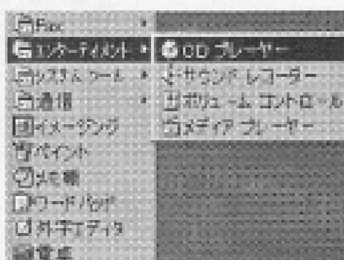
4 トレーを押し込みます。

5 取り出すときは、CD-ROMアクセスランプが点灯していないのを確認してからイジェクトボタンを押します。

3 マルチメディア機能を使う

Windows®には、マルチメディアを楽しむためのいろいろな機能が用意されています。ここでは、これらについて説明します。

マルチメディアを楽しむツールは、[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】-【アクセサリ】-【エンターテイメント】から起動します。



CDプレーヤー

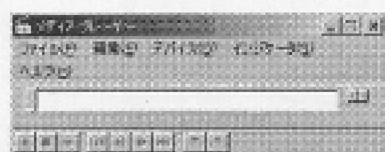
音楽用のCDを再生するプレーヤーです。CD-ROMドライブが接続されている状態で、ディスクをCD-ROMドライブにセットするだけで自動的に起動し、再生させることができます。
他のアプリケーションと同時に使えますので、お気に入りの音楽を聴きながらワープロで文章を書くといったこともできます。また、アルバムタイトルやアーティスト名などを登録したり、好きな曲だけを選んで再生させるといったことも可能です。



メディアプレーヤー

WAVフォーマットのサウンド、Video for Windowsで作られたAVIフォーマットのビデオなどを再生するプレーヤーです。この他にも、デバイス(周辺機器やドライバ)を追加することによりMIDIファイルで音楽を演奏したり、MPEG形式のビデオを再生させることもできます。

インストールされているWindows®には、いくつかのサンプルが用意されており、すぐに楽しむことができます。



サウンドレコーダー

マイクやLINE IN端子から入力された音声を編集し、録音することができます。録音したサウンドは、WAV形式のサウンドファイルとして保存できます。再生速度を変えたりエコーをかけることもでき、オリジナルのサウンドを簡単に作り出せます。また、本製品にはマイクが内蔵されていますので、ボイスメモとして活用することも可能です。



Note Video for Windows

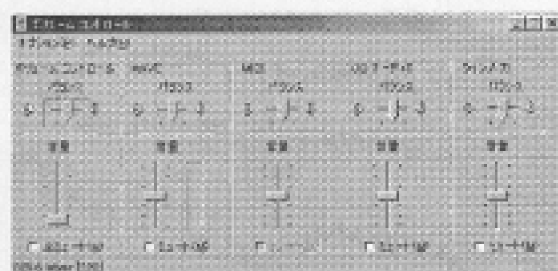
マイクロソフト社が開発したデジタル動画編集再生ソフトです。ビデオカメラで撮影した映像などをビデオキャプチャーボードを介してコンピュータに取り込み、編集してファイル(拡張子はAVI)に保存できます。Windows®には、再生機能のみ搭載されています。

Note MIDI(ミディ)

電子楽器を外部からコントロールするための標準インターフェイスです。コンピュータに市販のMIDI音源(様々な楽器の音色が記憶されている)を接続し、MIDIファイル(拡張子はMID・RMI)をメディアプレーヤーで読み込むことにより、音楽を高音質で演奏させることができます。

ボリュームコントロール

マイクやLINE IN端子から入力された音声や、WAVファイル、MIDIファイルなどの音声、音楽用CDから出力される音声の音量やバランスを、音源ごとに調節することができます。



第4章

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、ハードディスクドライブを交換する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

1. PCカードを使う……62
2. ハードディスクドライブを交換する……66
3. 外部キーボードやマウスを接続する……68
4. 外部モニタを接続する……69
5. IrDAポートを使う……71
6. USBポートを使う……72

1 PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠したPCカードスロットを搭載しています。ここでは、PCカード規格および装着方法とモデムカードを使うときの注意事項などについて説明します。

カード規格について

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Associationの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用することができるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。
ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

CardBus規格

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本体のPCカードスロットは上下ともにCardBusをサポートしています。

ZVポート規格

ZVポートとは処理にCPUを介さないことで、高速なデータ転送を可能にしたポートです。本体のPCカードスロットは上のスロットがZVポートをサポートしています。(ZVポート対応のPCカードを使用するにはPCカードに付属のドライバソフトが必要になります。)

カードサイズについて

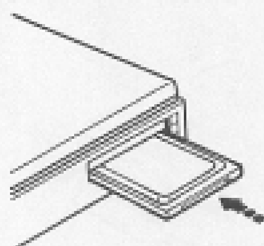
PCカードには、現在、TYPEⅠ(厚さ3.3mm)、TYPEⅡ(厚さ5.0mm)、TYPEⅢ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPEⅠまたはTYPEⅡのカードを2枚、またはTYPEⅢのカードを1枚装着することができます。

カードの抜き差し

PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐに使えるようになります。
PCカードを利用するアプリケーションを実行する前にPCカードを装着しておいてください。

カードを装着する

1 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタが付いているほうを奥にして、ゆっくりと差し込みます。
TYPEⅢのPCカードを使うときは、スロット2(下側)に差し込みます。



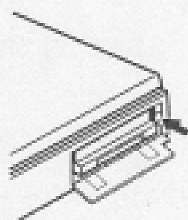
⚠注意　異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。
また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。

2 正しくカード用ドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んでシステムがカードを認識したときにビープ音が「ピポ」と鳴ります。
認識できないときはビープ音が「プ」と鳴ります。
カードの接続やドライバの種類を確認してください。

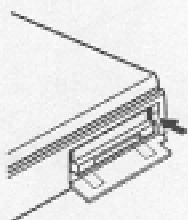
カードを取り外す

1 ［コントロールパネル］の中の［PCカード（PCMCIA)］のプロパティ画面上から取り外すカードを選択して、［終了］をクリックします。

2 取り外したいカードが装着されている側の、収納しているカードイジェクトボタンを押すと、カードイジェクトボタンが出てきます。



3 カードイジェクトボタンを押すと、カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。



⚠注意 PCカードを取り外す前に、HDD/FDD/PCカードLEDが消えていることを確認してください。
また、システム動作中にカードを取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

Note ビープ音が鳴らないときは

タスクバーの[icon]をクリックし、ボリュームコントロールパネルで音量を調整します。

4 システムを拡張する

モデムを使う

モデムカードを使用して電話回線をつなぐと、Windows®の通信ツールを使ってデータの送受信を行なうことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

ハイパーターミナルを使うときの注意

ハイパーターミナルを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

- ハイパーターミナルのCOMポートは自動的に設定されるか、モデムのインストール時に設定されます。設定を変更したい場合は、コントロールパネルのモデムで設定してください。

LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本製品をLANにつなぐことができます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができます。装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、認識方式が決められています。この場合、カード認識用ドライバをインストールして設定を行う作業が必要になります。
LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行なってください。

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power Savings」の項目はすべて「Disabled」に設定しておくことをお勧めします。

Word I/Oアドレス

CPUがデータをやり取りするために使用するチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®98ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

Word IRQ(割り込みチャネル)

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®98ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

2 ハードディスクドライブを交換する

本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクドライブを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

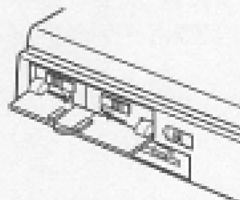
⚠注意 ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

ハードディスクを取り外すには

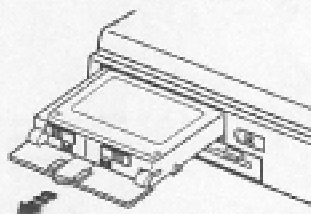
⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(➔ 82、83ページ)

1 本体右側のハードディスクドライブのカバーを開けます。

2 ハードディスクドライブを固定しているロックを内側に寄せて外します。



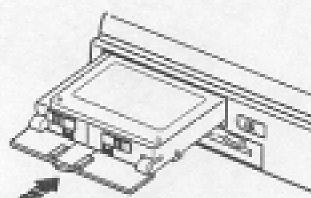
3 カバーをつまんで静かにハードディスクドライブを引き出します。



ハードディスクを取り付けるには

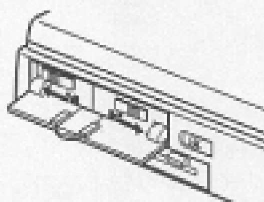
⚠注意　交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り付けることはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(➔82、83ページ)

1 コネクタにきちんと接続できるまで、スロットにハードディスクドライブを挿入します。



⚠注意　ハードディスクドライブの上下に注意して挿入してください。ラベル貼付側が上面になります。

2 ハードディスクドライブのロックをします。



3 ハードディスクドライブのカバーを閉じます。

4 電源をONにすると、環境が装着前と異なるためにパソコンの再起動を勧めるメッセージが表示されます。

5 [Y]を押します。システムが装着されたハードディスクの環境を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章　システムの設定を変える（BIOS）」(➔ 75ページ)の設定をお読みください。

Note　出荷時に装着されているドライブの内容

本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブには、サブディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

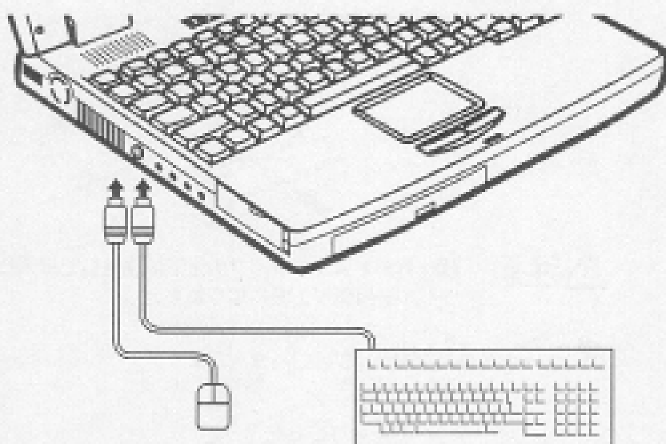
Note　新しいハードディスクを使うときは

新しいハードディスクドライブには、Windows®はインストールされていません。使いはじめるには、Windows®のインストールを行ってください。インストールの方法については、添付のWindows®のマニュアルおよび本製品のハードディスク内にある「始めにお読み下さい」をご覧ください。

3 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードやテンキーパッドまたはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードおよびマウスを接続することができます。

⚠注意 サスペンドの状態では装着できません。



本体左側面にある外部キーボード/マウスコネクタに、外部キーボード、テンキーパッド、マウスのケーブルを接続します。
接続されたキーボード・テンキーパッドとマウスは、自動的に認識されます。



外部テンキーパッドを使う

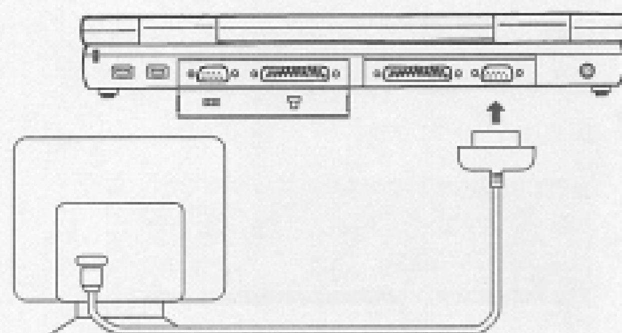
外部テンキーパッドは接続すると自動的に認識されます。内部キーボードで通常の入力を行ないながら同時に使用する場合は、内部キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。

使用できる製品については弊社テクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

4 外部モニタを接続する

本製品には、VGA/SVGA外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、最大1280×1024ドットの解像度で表示できるようになります。

⚠注意 **必ず本製品の電源をOFFにしてから接続してください。また、サスペンドの状態で装着できません。**



コンピュータの背面にある外部CRTポートに、外部モニタのケーブルを接続します。
システムコンフィグレーションメニューのVideo Display Deviceの設定が「CRT only」または「CRT+LCD」の場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューで「CRT only」または「CRT+LCD」の設定にしてください。
システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える（BIOS）」（→75ページ）の設定をお読みください。

⚠注意
- **コンピュータ本体の電源を入れてから、外部モニタの電源を入れてください。**
- **外部モニタを接続した場合、Windows®のコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は次ページをお読みください。**

Note **一時的に表示ディスプレイを切り替える**

Fn+F12を1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

⚠注意 LCDとCRTを同時表示する場合、接続する外部モニタは設定したデスクトップ領域（解像度）をサポートしたディスプレイを使用してください。

ディスプレイの種類を設定するには

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[設定]を選びます。

3 [詳細]をクリックし、「モニタ」タブをクリックします。

4 [変更]をクリックします。

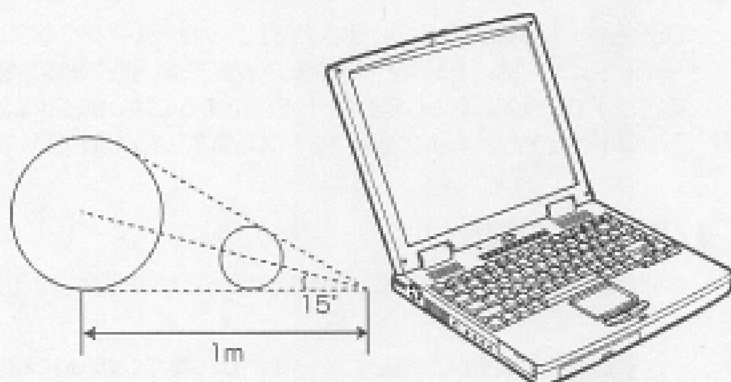


5 使用するディスプレイと一致するものを選択して、[OK]をクリックします。

色数や画面の領域の設定は、35ページをご覧ください。

5 IrDAポートを使う

本製品には、赤外線でデータを送受信するための規格である「IrDA」に準拠したIrDAポートが装備されています。IrDAポートを装備した他の機器とは、ケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。



コンピュータの左側面にあるIrDAポートと他の機器のIrDAポートが向いあうように配置します。



IrDAポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m以内になるように配置してください。また、通信中にポート間をさえぎると、通信不能になります。

6 USBポートを使う

本製品には、USB対応機器を取り付けるためのポートが装備されています。
ここでは、USBポートへのUSB対応機器の取り付けなどについて説明します。

USBについて

USBとは、Universal Sirial Busの略で、シリアルインターフェースの規格です。キーボード、マウス、モデムといった転送速度の低い周辺機器を最大127台まで連結することができます。なおUSBポートを使用するには、接続する周辺装置および利用するソフトウェアが、本インターフェースに対応している必要があります。

USB機器の取り付け

本体背面側のUSBコネクタにUSBの接続ケーブルを接続してください。

⚠注意 **接続するUSB機器によっては、USB機器に付属のドライバーをインストールする必要があります。**

第5章

システムの設定を変える（BIOS）

WinBook Quattro/Xの内部プログラムであるシステムコンフィグレーションを使って、本体システムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について説明しています。
必要に応じてお読みください。

1. システムコンフィグレーションの設定 ……74
2. パワーマネージメント機能の設定 …………82
3. 設定内容と初期値一覧 ……………………85

1 システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような機能の設定が行なえます。

- カレンダの日付と時間を設定する(➔76ページ)
- 起動方法と起動ドライブを設定する(➔77ページ)
- 通信ポートを設定する(➔77ページ)
- パラレルポートと動作モードを選択する(➔78ページ)
- パスワードを設定する(➔79ページ)
- ディスプレイモードを設定する(➔79ページ)
- システムの情報を表示する(➔80ページ)
- 設定をデフォルト状態に戻す(➔81ページ)
- パワーマネージメント機能を設定する(➔82ページ)
- サスペンド機能を設定する(➔83ページ)
- スタンバイ機能を設定する(➔83ページ)
- レジューム機能を設定する(➔84ページ)

メニューと操作方法について

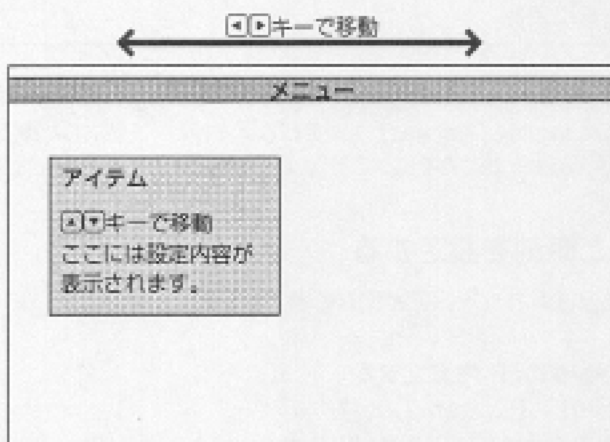
メニューを表示させるには…

システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、コンピュータの電源をONにした後の画面下に「Press <F2> to Enter Setup」と表示されている時、[F2]を押します。

Windows®が起動している状態からは、システムコンフィグレーションの設定は行なえません。必ずWindows®が起動する前にこの操作を行なってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。
設定項目は[◄][►]キーでメニューを選び、[▲][▼]キーを押すとアイテムを選択でき設定を変更できます。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。各項目の前に「►」がついているものはさらにサブメニューが含まれている事を示しています。



《項目の選択・設定の方法は》

・メニューを選択するには……………………◀ ▶キーで移動
・アイテムを選択するには……………………▲ ▼キーで移動
・アイテム内を移動するには……………………Tab または Shift Tab
・サブメニューへ移動するには……………………↵
・サブメニュー・メニューからの退避……………………Esc
・設定を変更するには……………………－/＋
・各メニュー内のみをデフォルト時の状態に戻すには……………………F9
・各メニュー内のみセットアップ内に入った時の状態に戻すには……F10
・終了するには……………………Exit

《設定を変更して終了させるときは》

【Exit Saving Changes】を選択して↵キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
［Yes］を選択すると、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。

```
Setup Confirmation

Save configuration changes and exit now?

[Yes]                    [No]
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit Discarding Changes】を選択して↵を押し、表示された画面で［No］を選択すると変更された設定が記憶されずにシステムコンフィグレーションを終了します。

日付と時刻を設定する

選択項目はメニュー、アイテムの順で表記しています。

● カレンダの日付を設定する

【Main】-【System Date】

現在設定されている日付が表示されますので、Tabキーで項目を移動し、数字キーまたは－/＋キーで日付を入力します。

● カレンダの時間を設定する

【Main】-【System Time】

現在設定されている時刻が表示されますので、Tabキーで項目を移動し、数字キーまたは－/＋キーで時間を入力します。

起動方法を設定する

● 起動ドライブを設定する

【Boot】-【Boot Device Priority】

起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMドライブから選びます。

▲▼キーで起動ドライブを指定して-キーを押すと、起動優先順位リストの下位に移動していきます。

［Removable Devices］を1番に設定すると、フロッピーディスクをセットしているときはフロッピーディスクから、セットしていないときはハードディスクからシステムが起動します。「Hard Drive」を選ぶと、フロッピーディスクをセットしているいないにかかわらず、ハードディスクからシステムが起動します。

各種入出力ポートを設定する

●シリアル通信／赤外線通信ポートを選択する

【Advanced】-【Integrated Peripherals】-「Serial port A」

【Advanced】-【Integrated Peripherals】-「Serial port B」

外部シリアル通信ポート(Serial Port)は通常COM1(3F8h)で、使用するアプリケーションにより変更が必要なときはCOM2(2F8h)、COM3(3E8h)、COM4(2E8h)から任意に設定できます。IRQチャネルは通常4です。

赤外線通信ポート(IrDA Port)は通常COM2(2F8h)で、使用するアプリケーションにより変更が必要なときはCOM1(3F8h)、COM3(3E8h)、COM4(2E8h)から任意に設定できます。使用しないよう特に設定したい場合は「Disabled」を選びます。IRQチャネルは通常3です。

⚠注意　シリアルポートと赤外線通信ポートのポート番号は重ならないように設定してください。なお、COM1(3F8h)とCOM3(3E8h)またはCOM2(2F8h)とCOM4(2E8h)は同時使用できません。

Note　起動ドライブについて

デフォルトでは、ドライブAのフロッピーディスクドライブからWindows®が起動する設定になっています。
(Removable Devices)

● パラレルポートと動作モードを選択する

[Advanced]-[Integrated Peripherals]-「Parallel port」-「Base I/O address」 I/Oアドレス設定
[Advanced]-[Integrated Peripherals]-「Parallel mode」-「mode」 動作モードの設定

I/Oアドレスは通常はLPT1(378h IRQ7)に設定します。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはLPT2(278h IRQ7)、LPT3(3BCh IRQ7)に設定を変更できます。動作モードは、通常「ECP」に設定します。

入出力デバイスを設定する

● フロッピーディスクのモードを設定する

【Main】-【Diskette A】

3モード(720KB/1.2MB/1.44MB)対応のフロッピードライブにするかどうかを指定します。通常3モード時は「1.44/1.25MB,3 1/2」に設定します。

● PS/2マウスを使うかどうかを選択する

【Advanced】-【Internal PS/2 Mouse】

PS/2マウスを使用する場合、[Enabled] に設定します。さらにオペレーティングシステムでマウスを使用できるように設定します。BIOSで [Enabled] に設定してもオペレーティングシステムで、マウスを使用できないように設定することもできます。



パラレルポート

本製品のパラレルポートはECPに対応しており高速転送が可能です。
ECPはIEEE1284準拠で提唱されている規格です。

パスワードを設定する

● パスワードを設定する

【Security】
-【Set Supervisor Password】
-【Set User Password】

いずれの場合も、パスワードに使用できるのは英、数字のみで、1文字から7文字の長さで設定します。大文字・小文字の区別はありません。
パスワードの解除はパスワード入力画面で⏎キーを2回押します。

```
Enter new Password:_______
```

⚠注意 パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンタまでご連絡ください。

● 起動時にパスワード入力が必要かどうかを設定する

【Security】-【Password on boot】

Supervisor Password機能を設定すると、システム起動時にパスワードの入力が必要になるよう設定できます。

⚠注意 User Passwordを使用するとドライブA(フロッピードライブ)が使用できなくなるので、個人で使用する場合はSupervisor Passwordを使用してください。

表示モードを設定する

● 起動時の表示デバイスを設定する

【Main】-【Video Display Device】

「CRT+LCD」を選ぶと、画面は外部CRTとLCDの両方に表示されます。「LCD only」を選ぶとLCDのみ、「CRT only」を選ぶと外部CRTのみに表示されます。

システムをチェックする

● 起動時にFDDをチェックする

【Boot】-「Floppy check」　　FDDの障害チェック

「Floppy check」はブート時にFDDの検査を実行(Enabled)します。

システム情報を表示する

● 使用OSを表示させる

【Advanced】-【Installed O/S】

使用するOSの種類が表示されます。

● パスワード設定情報を表示させる

【Security】-【Supervisor Password is】

【Security】-【User Password is】

パスワードを設定しているかどうかが表示されます。

● ハードウェア構成を表示させる

【Boot】-「Summary Screen」

OS起動前にハードウェア構成情報を表示させます。

システムコンフィグレーションのその他の設定

● **設定をデフォルト状態に戻す**

【Exit】-【Load Setup Defaults】

各項目の設定値をデフォルトに戻します。

各項目のデフォルト値は巻末に一覧で説明しています。

● **設定を画面を開いたときの設定値に戻す**

【Exit】-【Discard Changes】

［Discard Changes］を選択して⏎キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Setup Confirmation

Load previous configuration now?

[Yes]                    [No]
```

［Yes］を選択すると、各項目の設定値をシステムコンフィグレーションメニューを開いたときの設定値に戻します。

● **設定値を一時的に保存します。**

【Exit】-【Save Changes】

各項目の設定値を一時的に保存します。システムコンフィグレーションメニューは終了しません。

【Save Changes】を実行し、その後さらに変更を加えてから【Exit Discarding Changes】または【Discard Changes】を実行すると、セットアッププログラムに入った時の値に戻ります。

2 パワーマネージメント機能の設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのスタンバイ機能・パワーセービング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存するサスペンド機能が搭載されています。ここでは、システムコンフィグレーションメニューを使って、これらの機能を設定する方法について説明します。
パワーマネージメント機能に関する設定は、システムコンフィグレーションメニューの【Power】から選びます。システムコンフィグレーションメニューの操作方法は、75ページを参照してください。

⚠注意 パワーマネージメント機能を設定した後、設定した内容を有効にするためにコンピュータを再起動してください。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

パワーマネージメント機能を設定する

● パワーマネージメントを設定する

【Power】-【Power Savings】

- 「Maximum Power Savings」　パワーセーブ再優先
- 「Maximum Performance」　処理優先
- 「Customized」　個別に選択
- 「Disabled」　パワーセーブしない

パワーマネージメントの効率を設定します。

● ACアダプタ／バッテリ動作時のパワーマネージメントを設定する

【Power】-【PM Control】

パワーマネージメントをバッテリ駆動の時だけ有効(Battery Powered Only)にするか、ACアダプタ動作の時でも有効(Always)にするかを設定します。

● 処理がないときにCPU処理を停止させる

【Power】-【CPU Doze Mode】

CPU処理が必要でないときに、CPU処理を停止するかどうかを設定します。

サスペンド機能を設定する

● **オートサスペンド機能を設定する**

【Power】-【Auto Suspend Timeout】

サスペンド機能を実行しないときはDisabledに設定します。実行するときは、何分後かを5～60分の間で設定します。

● **サスペンド時の情報の保存先を設定する**

【Power】-【Suspend Mode】

サスペンド時の情報をメモリに保存する(Suspend)か、ハードディスクに書き込み保存する(Save to Disk)かを設定します。ハードディスクに保存すると、サスペンド時の情報をメモリに保持しないくてよいため、バッテリの消費をより抑えることができます。

スタンバイ機能を設定する

● **スタンバイモードにする**

【Power】-【Standby Timeout】

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から16分の間とDisabled(動作しない)で設定します。

キーボードのキーを押したりタッチパッド(マウス)/HDD/FDD/IRQの監視を操作するとスタンバイモードは解除されます。



Windows®を使用している場合、スタンバイで時間を設定しても、設定通りの時間にならないことがありますが、故障ではありません。これは何も入力操作を行わなくても、Windows®98自身が自動処理(HDDの自動保存やその他の監視動作)を行うためで、その処理が行われるたびにリセットされてしまうためにおこる現象です。

スタンバイモード時のデバイス動作を設定する

● **ハードディスクの電源をOFFにする**

【Power】-【Hard Disk Timeout】

一定時間HDDへのアクセスがないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクの電源をOFFにする機能です。このときハードディスクの電源は切れますが、システムの動作は継続しています。時間は1分から15分の間とDisabled(動作しない)で設定します。

● ディスプレイ表示を消す

【Power】-【Video Timeout】

一定時間キーボードおよびタッチパッド(マウス)からの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD・CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から15分の間とDisabled(動作しない)で設定します。

レジューム機能を設定する

●設定した時間にレジュームさせるかどうかを設定する

【Power】-【Resume On Time】

【Power】-【Resume Time】で設定した時間にレジュームさせるかどうかを設定します。

●レジューム時間を設定する

【Power】-【Resume Time】

レジュームさせる時間を時：分：秒で設定します。例えば午後1時にレジュームさせるには、13：00：00と設定します。

警告音を設定する

●ローバッテリ状態のときビープ音を鳴らすか設定する

【Main】-【PC Beep Mute】

バッテリがローバッテリ状態のとき、警告音を鳴らすか、鳴らさないかの設定を行ないます。有効(Enabled)にすると警告音が鳴ります。

Note **クロックスピードが落ちると困るときは**

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にスタンバイの設定を行なっていると、稼動状態に検出が正しくできないことがあり、スタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、無効(Disabled)に設定してください。

Note **ネットワークを使っている場合**

【Standby Timeout】の設定項目はすべて「Disabled」に設定しておくことをおすすめします。

3 設定内容と初期値一覧

メニュー	アイテム	デフォルト設定値	説明
Main	System Time		時間を設定します。
	System Date		日付を設定します。
	Diskette A:	1.44/1.25MB.3 1/2"	フロッピーディスクドライブの種別を設定します。1.44/1.25MB.3 1/2(3モード対応ドライブ)を設定してください。
	IDE Adapter 0 Master		
	・Type	Auto	HDDの容量、機能を自動検出します。
	・Cylinders		HDDのシリンダを設定します。通常TypeをAutoにしていればHDDの持つ情報を呼び出していきます。
	・Heads		HDDのヘッドを設定します。通常TypeをAutoにしていればHDDの持つ情報を呼び出していきます。
	・Sectors		HDDのセクタを設定します。通常TypeをAutoにしていればHDDの持つ情報を呼び出していきます。
	・Maximum Capacity		HDDのフォーマット時の最大容量を表示します。
	・Multi-Sector Transfers		Multi-Sectors-Transferで使用するセクタ数を表示します。
	・LBA Mode Control	Enabled	LBA modeの状況を表示します。
	・32 Bit I/O	Enabled	HDDにアクセスする時、32 Bit I/Oで行うかどうかを設定します。この設定はDisableで使用してください。
	・Transfer Mode	Fast PIO 4	HDDの転送モードを表示します。
	・Ultra DMA Mode	Disabled	データ伝送速度を設定します。TypeをAutoにすると、最適な伝送モードになります。
	Primary Slave	None	Primary Slaveに設定されたHDDの容量を表示します。サブメニューは上記のIDE Adapter 0 Masterと同様です。
	IDE Adapter 1 Master		この機種はマスタとしてHDDを持つことができません。この項目については設定しないでください。
	PC Beep Mute	Disabled	起動、ローバッテリー警告、PCカード認識のときにビープ音を鳴らすかどうかを設定します。Disabledで鳴らします。
	Video Display Device	CRT+LCD	ビデオ出力をするときのディスプレイモードを設定します。
	TV Display Option	NTSC	テレビ出力ポートを使用したときのディスプレイ・オプションを設定します。
	Memory Cache	Enabled	2次キャッシュ・メモリーを有効にするかしないか設定します。有効にすると処理スピードが向上します。
	System Memory		コンベンショナル・メモリーのサイズを表示します。
	Extended Memory		拡張メモリーのサイズを表示します。
	Memory Bank 0		メモリー・バンク 0にインストールされたメモリーのサイズを表示します。
	Memory Bank 1		メモリー・バンク 1にインストールされたメモリーのサイズを表示します。

メニュー	アイテム	デフォルト設定値	説明
Advanced	Installed O/S	Win95/98	使用するOSの種類を設定します。
	Integrated Peripherals		
	・Serial port A	Enabled	シリアルCOM1ポートを設定します。
	・Base I/O address	3F8、IRQ4	シリアル・ポートAがEnabledに設定されているときシリアル・ポートのIRQとI/Oアドレスを設定できます。
	・Serial port B	Disabled	シリアルCOM2ポートを設定します。
	・Base I/O address	2F8、IRQ3	シリアル・ポートBがEnabledに設定されているときシリアル・ポートのIRQとI/Oアドレスを設定できます。
	・Mode	SIR	高速赤外線（FIR）通信モジュールを有効にするかしないか設定します。FIRを選択するとDMAチャンネルメニューが表示されます。
	・DMA channel	DMA3	赤外線ポートのDMAチャンネルを設定します。
	・Parallel port	Enabled	パラレル・ポートを設定します。
	・Mode	ECP	パラレル・ポート通信モードを設定します。ECPを選択するとDMAチャンネルメニューが表示されます
	・Base I/O address	378/IRQ7	パラレル・ポートのI/Oアドレスを設定します。
	・DMA channel	DMA0	パラレル・ポートのDMAチャンネルを設定します。
	Diskette Controller	Enabled	オンボード・フロッピー・ディスク・コントローラを有効にするかしないか設定します。
	PCI IDE Controller	Both	ローカル・バス統合IDEアダプタを有効にするかしないか設定します。
	Internal PS/2 Mouse	Enabled	PS/2マウスの設定をします。
	Auto Dim	Enabled	ACアダプタを取り外したとき、LCDパネルの明るさを半分にして電源を保持するように設定できます。
	Large Disk Access Mode	DOS	使用するOSにより設定します。通常はDOSを設定します。
Security	User Password is	Clear	ユーザーパスワードが設定されているかどうかを表示します。
	Supervisor Password is	Clear	スパーバイザパスワードが設定されているかどうかを表示します。
	Set User Password	Enter	ユーザパスワードを設定します。解除は入力画面で↵キーを押すと解除されます。ユーザーパスワードを設定すると、フロッピィディスクへの書き込みは禁止されます。
	Set Supervisor Password	Enter	スパーバイザパスワードを設定します。解除は入力画面で↵キーを押すと解除されます。その際ユーザーパスワードも設定していると、ユーザーパスワードも解除されます。
	Password on boot	Disabled	起動時にパスワードを聞いてくるか聞いてこないかを設定します。Disabledでシステムコンフィグレーションメニューに入るとき、Enabledではさらにシステム起動時にもパスワードを聞いてきます。
	Fixed disk boot sector	Normal	HDDのブート・セクタにブロックされずにアクセスできるかどうかを設定します。事前にSupervisorパスワードを設定しておく必要があります。
	Diskette Access	Supervisor	FDDにアクセスする前にSupervisorパスワードかまたはUserパスワードを聞いてくるように設定します。Supervisorを選択すると、SupervisorパスワードをR入力するだけでFDDにアクセスできます。
	Virus Check Reminder	Disabled	ウィルス・チェックをするようにというメッセージを表示するかどうか設定します。
	System Backup Reminder	Disabled	システムのバックアップをするようにというメッセージを表示するかどうか設定します。

メニュー	アイテム	デフォルト設定値	説明
Power	PM Controll	Battey Powered Only	パワーマネージメント機能を、バッテリ動作時だけに機能させるか、ACアダプタ接続時でも機能させるかを設定します。
	Power Savings	Customized	バッテリのみ使用時のパワーマネジメントを設定します。ACアダプタ使用時はパワーマネジメントは効きません。
	Standby Timeout	8Minutes	グローバルスタンバイを設定します。 キーボード、マウス、HDD、FDD、IRQの監視を行います。
	Auto Suspend Timeout	10Minutes	メモリーの一部に最低限の電力だけを残しサスペンドします。
	Suspend Mode	Suspend	Suspend時の内容をメモリに退避させるか(Suspend)、ハードディスクに退避させるか(Save to Disk)を選択します。
	CPU Doze Mode	on	CPUアイドル・モード・パワーセービングを有効にするかどうか設定します。Onを選択するとシステムがビジーではないとき、CPUがスローダウンします。
	Hard Disk Timeout	4Minutes	HDDのオフタイマーを設定します。HDDへのアクセスで動作を開始します。
	Video Timeout	6Minutes	画面表示のオフタイマーを設定します。キーボードとマウスのアクセスで動作を開始します。
	CPU Thermal Control	Enabled	CPUがある設定温度になる前にパワー・マネージメント・モードに入るかどうか設定します。
	Battery Low Suspend	Enabled	バッテリー充電量が少なくなったときサスペンドするかどうか設定します。
	Resume On Time	Off	「Resume Time」で設定した時間にレジュームするかどうか設定します。
	Resume Time	00:00:00	レジュームする時刻を設定します。
Boot	Floppy Check	Disabled	ブート中にFDDの検査を行うかどうかを設定します。Enabledで検査を行います。
	Summary Screen	Enabled	ブート中にシステム・コンフィギュレーション画面を表示させるかどうか設定します。Enabledで表示します。
	QuickBoot Mode	Enabled	システムがPOST処理をスキップするかどうか設定します。
	Boot Device Priority		起動デバイスの順番を設定します。
Exit	Exit Saving Changes		設定した内容が記録され、SCUを終了します。
	Exit Discarding Changes		設定した内容が無効となり、SCUを終了します。
	Load Setup Defaults		各々の設定がデフォルトに戻ります。
	Discard Changes		設定した内容が無効となります。
	Save Changes		設定した内容が一時的に保存されます。

MEMO

第6章

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

1.　トラブルの原因と対処方法 ····················90

1 トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行なってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(➔ 14ページ)



キーボード、およびマウスからの入力を一切受けつけない状態（ハングアップ状態といいます）になったときには、Ctrl+Alt+Deleteキーでソフトウェアリセットを行ってみてください。もし、電源を立ち上げ直しても復帰できないときは、テクニカルサポートセンタまでご連絡ください。

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの販売店にご相談ください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRT onlyで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	コンピュータの電源をONし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピードライブがブートデバイスに設定されていて、かつフロッピーディスクがドライブにセットされている。	フロッピーディスクを出して、キーボードのキーをどれか押してください。
ハードディスクがしっかりと接続されていない。	ハードディスクをラッチがかかるまで押し込んでください。

●Windows®が起動しない

考えられる原因	対処方法
メモリテストが正常に行なわれるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。(➔81ページ)
Windows®のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、前回、Windows®が正常に終了できていません。	電源を入れた直後からずっとCtrlキーを押していると起動メニューが表示されます。ここで、「Safeモード」を選ぶと、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。また、「Step-by-step Confirmation」(各コマンドの実行を確認する)を選ぶと、起動コマンドを1つずつ確認しながら起動できます。Windows®起動時のトラブルの詳細についてはWindows®のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。お買い求めの販売店にご相談ください。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(➔ 42ページ)
3モードドライバがインストールされていない状態で、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクがセットされている。	3モードドライバを再インストールしてください。なお、出荷時は、すでにインストールされていますので、1.2MBフォーマットでもそのまま読むことができます。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●スーパーVGA、XGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。また、サスペンドしている場合には電源スイッチを押してください。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使わないときは、システムコンフィグレーションの設定を変更してください。(➔ 83ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、"ひらがな/カタカナ"キーなどが間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 48ページ)

●音が鳴らない

考えられる原因	対処方法
Windows®のミキサーでミュートがチェックされている。	ミュートのチェックをはずしてください。

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 76ページ)

●サスペンド・レジュームできない

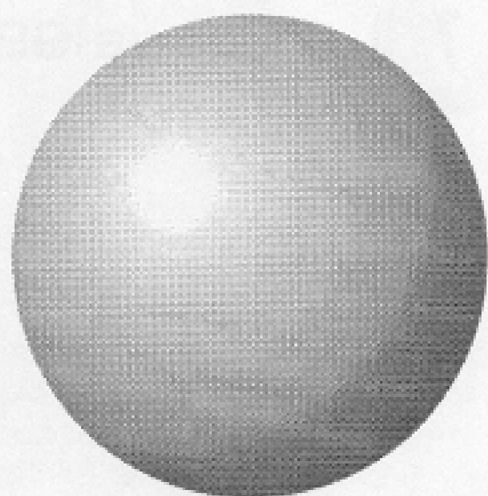
考えられる原因	対処方法
システムコンフィグレーションメニューの設定が正しくない。	システムコンフィグレーションを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 83ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 24、26ページ)

●CPUクロックスピードがLOWスピードになる

考えられる原因	対処方法
CPUがオーバーヒートしている。	LOWスピードのまま使用してください。一定の温度まで下がると、自動的に通常のスピードに戻ります。
スタンバイモードに入っている。	スタンバイモードに入ると、CPUのスピードが自動的に落ちます。スタンバイモードが使用する環境に適さない場合は、システムコンフィグレーションメニューの「Standby Timeout」の項目を、Disabledに設定してください。(➔83ページ)



ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて承っております。



Appendix

本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

1. Windows®98での
   パワーマネージメント機能の使用 ……96
2. 赤外線通信について ……97
3. 索引 ……98

1 Windows®98でのパワーマネージメント機能の使用

Windows®98では、自動的にCPUのクロックスピードをコントロールして電力を節約するAPMという機能が働いており、これにより長時間のバッテリ使用ができるようになっています。
さらに、バッテリ使用時間を長くしたい場合には、「Power Savings」と「オートサスペンド」の機能を利用する必要があります（➔83ページ）。

しかし、Windows®98のCD-ROMオートスタートの機能が有効になっていると、上記のサスペンド機能を利用できません。CD-ROMオートスタートの機能を停止するには次の手順で設定を変更してください。

1. ［スタート］ボタンをクリックし、【設定】－【コントロールパネル】を選びます。
2. コントロールパネルの中の［システム］アイコンをダブルクリックし、［デバイスマネージャ］を選びます。
3. コンピュータの項目の中の「CD-ROM」をダブルクリックします。
4. 「TOSHIBA CD-ROM XM1702B」（CD-ROMの場合）をダブルクリックします。
5. 「設定」をクリックします。
6. オプションの中の［挿入の自動通知］の項目の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを消し、［OK］をクリックします。
7. デバイスマネージャの画面が表示されるので、［閉じる］をクリックします。
8. 「今すぐ再起動しますか？」と表示されるので、［はい(Y)］をクリックします。

2 赤外線通信について

WinBook Quattro/Xには赤外線通信の手段として、Windows®98のケーブル接続があります。

Windows®98のケーブル接続

接続先のノートブックコンピュータをドライブとして割り当てて、任意のアプリケーションよりアクセスすることができます。この場合、通信相手のコンピュータのオペレーティングシステムは、Windows®98である必要があります。

Windows®98のケーブル接続の設定方法については、次の手順でヘルプを開いて確認してください。

Windows®98のケーブル接続の設定方法

1. ［スタート］ボタンをクリックし、［ヘルプ(H)］を選びます。
2. 「キーワード」タブをクリックし、「ケーブル接続」と入力して「Enter」を押します。
3. 「赤外線通信によるケーブル接続をセットアップするには」をクリックし、[表示]をクリックします。

⚠注意　コントロールパネルの中にある「赤外線モニタ」は、Windows®98のケーブル接続を使用するときには有効にしておく必要があります。次に、この設定の変更方法を示します。

1. ［コントロールパネル］の「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックして、「赤外線モニタ」を起動します。
2. 「オプション」の欄を選択し、「次のポートで赤外線通信を使用可能にする(E)」の項目のチェックマークをクリックして、使用目的に合わせて設定を変更してください。
3. ［OK］をクリックして、赤外線モニタを閉じます。

3 索引

あ

アイコン……31
アプリケーションキー……46
アルファベット……52

い

イジェクトボタン……42・57
色……35~37
インサートキー……47

う

ウィンドウ……31

え

英記号……52
エスケープキー……47
エフエヌキー……48
エンターキー……47

お

オートサスペンド……83
オルトキー……48
大文字モード……48
音量の調節……40・45・54

か

カーソルキー……48
カードの抜き差し……63
カードサイズ……63
解像度……35~37
外部オーディオ機器……55
外部CRTポート……21・69
外部モニタ……69
外部キーボード……68
外部キーボード/マウスコネクタ……19・68
外部テンキーパッド……68
外部マウス……68
外部入力端子……55
カタカナキー……48
カタカナ……52
カタカナ/ひらがなキー……48
かな記号……52
カナキー……48
かな入力……50
カバーの開け閉め……18
画面の領域……35~37
カラーパレット……35~37
漢字の入力……50

き

キーボード……44~49
キャップスロックキー……48

く

クリック……30・32

こ

小文字モード……48
コントロールキー……48

さ

再起動……29
最小化……34
最大化……34
サウンド機能……54・55
サウンドレコーダー……59
サスペンドステータスLED……23
サスペンド・レジューム……26・38・39・83
サポート……14

し

時刻……76
システムファンクションキー……45
シフトキー……48
シリアルポート……21・77
充電……24
充電LED……23~25

す

数字 ……………………………… 49・52
スクロールロックキー ………………… 49
スタートボタン …………………… 31・33
スタートメニュー ……………………… 33
スタンバイ ………………… 38・39・83
ステータスLED …………………… 19・23
ステレオスピーカ ………………… 21・54
スピーカ ………………………… 21・54
スペースキー ………………………… 48

せ

制御キー ……………………………… 44
赤外線通信 ……………………… 71・97
全角 ……………………………… 48・50

そ

ソフトウェアリセット ……………… 19・29

た

タスクバー ……………………… 31・33
タッチパッド ……………… 18・19・30
タブキー ……………………………… 48

て

テクニカルサポートFAXシート記入用紙 …… 14
デリートキー ………………………… 47
電源 ……………………………… 24・28
電源LED ………………………… 23・24
電源スイッチ …………………… 19・28
テンキー ……………………………… 49
テンキーパッド ……………………… 68

と

時計 …………………………………… 31
ドラッグ ………………………… 30・32
ドロップ ……………………………… 32

な

内蔵マイク ……………………… 19・54
ナンバーロック ……………………… 49
ナンバーロックキー ………………… 49

に

日本語入力システム ……………… 48・50
入力方法 …………………… 48・50~52
入力モード ……………………… 50~52

は

ハードウェアリセット ………………… 29
ハードディスクドライブ ……… 21・66・67
ハードディスクを取り外す …………… 66
ハードディスクを取り付ける ………… 67
ハイパーターミナル …………………… 65
パスワード ……………………… 79・80
バックスペースキー …………………… 47
バッテリ ……………………… 21・24・25
バッテリパック …………………… 24~27
バッテリ固定用フック …………… 21・26
バッテリLED ……………………… 23・25
パラレルポート …………………… 21・78
パワーマネージメント ………………… 82
半角 ………………………………… 48・50
半角/全角キー …………………… 48・50
ハングアップ …………………………… 90

ひ

ビープ音 …………………… 25・64・84
日付 ……………………………………… 76
ひらがな …………………………… 44・50
ひらがなキー ………………………… 48

ふ

ファンクションキー ………… 47・48・52
フォーマット ……………… 41・42・67
フォントサイズ …………………… 35・36
プラグアンドプレイ …………………… 65
プリントスクリーンキー ……………… 47
フロッピーディスク ……………… 41・42
フロッピーディスクドライブ …… 21・41・42

へ

ヘッドホン……19・55
変換キー……48

ほ

ポーズ・ブレークキー……47
ポインタ……31
ボリュームコントロール……40・60

ま

マイク……55
マイク入力……54・55
マウス……32・68・78

む

無変換キー……48

め

メディアプレーヤー……59

も

文字入力キー……44・46
モデムカード……65

ら

ライトプロテクトノッチ……42
ライン入力……19

り

リセット……29

れ

レジューム……39・84

ろ

ローバッテリ状態……84
ローマ字入力……50・52
ロック状態……44

A

ACアダプタ……21・24
ACアダプタコネクト/充電LED……23・24・25
Altキー……48

B

Back Spaceキー……47

C

CAPSロックLED……23
CD-ROMドライブ……21・22・56
CDプレーヤー……58
COM1～4……21・77
CpLKキー……48
Ctrlキー……48

D

DC入力コネクタ……21
Deleteキー……47

E

Enterキー……47
ESCキー……47

F

FDD LED……23・28・64
Fnキー……48

H

HDD LED……23・28・64

I

I/Oアドレス……65
Insertキー……47
IrDAポート……19・71
IRQ……65

L

LAN……65
LCD/CRT設定……35・69・79
LCD画面……19・35
LINE IN……19・55
LINE OUT……19

M

MIC IN ・・・・・・ 19・55
MS-IME98 ・・・・・・ 48・50
MS-DOS ・・・・・・ 42

N

NumLkキー ・・・・・・ 49
NUMロックLED ・・・・・・ 23・44

P

Pause Breakキー ・・・・・・ 47
PCMCIA規格 ・・・・・・ 62
PCカード ・・・・・・ 62~64
PCカードの抜き差し ・・・・・・ 63
PCカードスロット ・・・・・・ 19・63
PCカードLED ・・・・・・ 23・64
PrtScキー ・・・・・・ 47
PS/2マウス ・・・・・・ 78
PS/2外部キーボード ・・・・・・ 68

S

SCRLロックLED ・・・・・・ 23
Shiftキー ・・・・・・ 46
Supervisor Password ・・・・・・ 79
SVGA ・・・・・・ 69

T

Tabキー ・・・・・・ 48

U

User Password ・・・・・・ 79

V

VGA ・・・・・・ 69

W

Windows®98 ・・・・・・ 31~37・42
Windows®キー ・・・・・・ 46
Windows®NT ・・・・・・ 39

数字

1.2MB ・・・・・・ 41・42
1.44MB ・・・・・・ 41・42
3.5インチフロッピーディスク ・・・・・・ 41
3モードドライバ ・・・・・・ 42
720KB ・・・・・・ 41

MEMO

MEMO

MEMO

WinBook Quatro/X
ユーザーズガイド

1998年8月　　第1版
株式会社ソーテック



878E0073-0001